

都留市埋蔵文化財報告第6集

国道都留バイパス建設に伴う

詳細分布調査報告書

1979

都留市教育委員会

序

都留市教育委員会教育長 内藤 直成

この度国道都留バイパス予定路線の詳細分布調査を国、県の補助事業として進めさせていたゞき
こゝに貴重な記録をまとめご報告させていただきます。

本調査は予定路線内に文化財に関するものの存在を把握し、後の発掘調査等に便宜をもたらすための調査報告であります。

先に「都留市の先史遺跡」と題して発表いたしました研究資料を絆とけば本調査の沿線地域には
数カ所にわたって貴重な文化財資料が確認されております。

今回の調査報告はこの道推進のために盛大なる調査研究資料として役立つ立派な報告書である事
をこゝに申し添えさせていただきます。

調査内容は十日市場地区、上谷地区、法能地区、下川地区、井倉地区、九鬼地区と六地区を対照
に調査をしたものであります。

特に本調査にご協力いたゞいた県文化課、堀内真氏に対して厚くお礼を申し上げます。

尚調査担当者であります奥隆行氏（都留市文化財審議会委員）日本大学考古学研究会の学生諸兄、
都留文科大学考古学研究会の学生諸兄には八月の酷暑の一ヶ月泥ん子になって協力していたゞいた
献身的なご功績に対して心から感謝を申し上げる次第であります。又都留市の発掘調査の実績は国、
県の関係者より高く評価されている事は都留市教育委員会として誠に喜びにたえませんがこれも皆
さまのお力添いのお陰であり絶大なる敬意を表する次第であります。

終りに今後の道路開発事業でたとえ土器片一つでも手にしたらご報告下さい。

遺跡の存在は一片の土器片より発見される貴重な資料となる事を切望いたします。

例　　言

1. 本書は、昭和53年度に、国庫補助並びに県補助を受けて実施した国道都留バイパス通過予定地内における詳細分布調査の成果報告である。
2. 調査主体者　　都留市教育委員会
3. 調査期間　　昭和53年8月1日～31日
4. 調査担当者　　奥 降行(都留市文化財審議会委員)
奈良泰史(都留市教育委員会)
5. 調査員　　喜多尘介・鈴木利幸
6. 調査補助員(順不同)
千野俊彦・伊藤修二・片山雅文・工藤信一郎・相良雅男・和田保・
岩田雅男・繩方公彦・長谷川修・浜田広明・平林彰・増田広志・
鈴木達仁・宍戸美智子・新藤恭子・宮野晴美・守安幸代・山根則子・
大崎裕美・大野陽子・須藤夕子・平佐枝子・日向容子
(以上 日本大学考古学研究会)
横山典夫・藤岡正治・平本信雄・落合佐敏・森下佳代子・窪井祐子・
石原喜恵子
(以上 都留文科大学考古学研究会)
7. 調査後の資料整理は、奈良・喜多を中心に下記の者の協力を得て行った。
(遺物資料整理)工藤信一郎・平本信雄・和田保・片山雅文・相良雅男・青野恵子
(遺物実測・拓本等整理)河合仁志・片山雅文・工藤信一郎・相良雅男・山根則子・宮野晴美
・宍戸美智子
8. 本報告書は、学生が作製した調査記録カードに基づいて喜多が編集し、これに奈良が加筆して取りまとめたものである。
9. 発掘及び遺物整理において、県文化課、堀内英氏(富士吉田市役所)から御指導、御助言をいたしました。厚く御礼申し上げる次第である。

目 次

序 都留市教育委員会 内 藤 益 成
教育長

例 言

1. 調査経過及び調査日誌	1
2. 調査地区の概要	4
3. 調査の経過及び結果	7
1. 十日市場地区	7
2. 上谷地区	12
3. 法能地区	15
4. 玉川地区	18
5. 井倉地区	21
6. 九鬼地区	40
4. まとめ	42
5. あとがき	43

1 調査経過及び調査日誌

1. 調査に至る経緯(事務経過)

- 昭和53年1月10日 文化庁・県教委に、計画書提出
" 5月10日 文化庁・県教委より、補助事業の内定通知を受ける。
" 5月12日 文化庁・県教委に、補助金交付申請書提出
" 6月20日 本日より、バイパス通過予定地内に設定する試掘地点の選定にあたる。
" 7月20日 本日までに、地主より、20地点において、試掘調査の承諾を得る。

2. 調査日誌

- 昭和53年8月1日 本日より調査を開始する。本日は、十日市場地区第1地点～第4地点の調査に当たる。第2・第3地点において、表面採集によって、弥生式土器片が、かなり採集された。第1地点を除いた、すべての地点において、比較的浅いレベルから溶岩が露出したため調査は難行した。
" 8月2日 昨日に続いて、十日市場地区第1地点～第4地点の調査に当たる。第3地点第1グリットより弥生式土器片が1点出土した以外、他の地点では、出土遺物がなかった。各地点とも、溶岩が露出し、それ以上、掘り下げる事はできなかつた。
" 8月3日 本日は、十日市場第5地点、上谷第1地点の調査に当たる。十日市場第5地点は、現地表より70cm程で、ローム層に至る。出土遺物なし。上谷第1地点は、現地表より120cm程で、ローム層に至る。第1グリット第N層より縄文早期の土器片1点出土した。
" 8月4日 本日は、上谷第2地点の調査に当たる。第2グリット第N層中より土器片16点が出土した。第1グリットからは出土遺物はなかつた。
" 8月5日 昨日に続いて、上谷第2地点の調査に当たる。昨日、遺物の出土した層を精査したが、遺構は確認できなかつた。本日、新たに、上谷第3地点の調査に当たる。現地表より190cm程で、ローム層に至る。第V層中より、土師器片1点出土した。
" 8月6日 本日は、法能第1地点・第2地点の調査に当たる。2地点とも、出土遺物はなかつた。
" 8月7日 昨日に続いて、法能第1地点・第2地点の調査に当たる。第1地点、50～60cm程で砂礫層に、第2地点、170～190cm程でローム層に、それぞれ至る。
" 8月8日 本日は、法能第3地点の調査に当たる。両グリットとともに、出土遺物なし。
" 8月9日 昨日に続いて、法能第3地点の調査に当たる。両グリットとともに、現

地表面から、140cm程で砂礫層に至る。

- 昭和53年8月10日 本日は、玉川地区第1地点の調査に当たる。第Ⅲ層にまで至る。出土遺物なし。
- " 8月11日 昨日に統いて、玉川第1地点の調査に当たる。第Va層にまで至る。
- " 8月12日 本日もまた、下川第1地点の調査に当たる。本日、現地表面から、350cm程掘り下げる。第N層～第V層において、石核・剝片が出た。
- " 8月13日 本日は、井倉第1地点・第2地点の調査に当たる。両地点とともに、出土遺物なし。
- " 8月14日 昨日に統いて、井倉第1地点・第2地点の調査に当たる。第1地点、130cm程で、第2地点、300cm程で、礫層・ローム層に、それぞれ至る。出土遺物なし。
- " 8月15日 本日、現場休み。
- " 8月16日 本日、井倉第3地点～第5地点の調査に当たる。第3地点・第5地点出土遺物なし。第4地点は、表探及び第1層から遺物が出土した。
- " 8月17日 昨日に統いて、井倉第3地点～第5地点の調査に当たる。第3地点、60cm程で、ローム層に、第5地点、140～150cm程でローム層に、それぞれ至る。第4地点第1グリットは、220cm程掘り下げたが、多量の遺物が出たため、拡張区を設定して、遺構の有無を確認することにした。第2グリットは、80cm程でローム層に至る。出土遺物なし。
- " 8月18日 本日もまた、井倉第4地点の調査に当たる。昨日、調査の残った、第1グリットとともに、拡張区も、現地表面より220cm程掘り下げ、ローム層に至る。多量の遺物が出土したが、遺構は確認できなかった。
- " 8月19日 本日は、九鬼第1地点・第2地点の調査に当たる。おもに、表面採集を行なう。両地点とも、表探により、遺物が確認できた。第1地点では、縄文土器片、第2地点では、土師・須恵器片が採集された。第2地点は、桑畑のため試掘査を設定できなかったが、第1地点では、第1・第2グリットを設定した。出土遺物なし。
- " 8月20日 昨日に統いて、九鬼第1地点の調査に当たる。第1グリットは、現地表面から60cm程で、第2グリットは、80cm程でロームに至る。出土遺物なし。本日で、試掘調査を終了。



調査参加者 (住吉遺跡復元家屋の前にて)

2 調査地区の概要

十日市地区（略号 TY, TT）

北東側の桂川になだらかな傾斜地を見せる河岸段丘上にあり、国道139号線・富士急行線が、その南方に沿って走っている。第1地点は、標高540.4mで他地点に比べて最も高く、続く第2地点・540.0m, 第3地点・539.0mである。第4地点・536.2m, 第5地点・514.9mである。第1地点・第4地点・第5地点はいずれも休耕地で、第2地点・第3地点は宅地造成予定地である。当地区より一段低い段丘面に馬々舟遺跡（昭和51年度発掘・縄文前期猪俣C式期）がある。

十日市場地区は、第2・第3地点を中心に弥生式土器片が多量に散布しており、今回の分布調査においても重要地区の1つに上げられた。

上谷地区（略号 K）

東流する桂川の右岸段丘上に立地する地区で、バイパス予定線が国道139号線及び富士急行線と交差しながらこの段丘上を緩断するため、予定線に沿って、段丘上を緩断するかたちで試掘場を設定した。第1地点・標高503.3m, 第2地点・503.0m, 第3地点・504.0mである。いずれの地点も休耕地である。

法能地区（略号 H）

今回の調査では、法能西原、同宮原の両地点に渡る広い地域を対象としたが、一括して法能地区と称した。法能字住吉には、周知の住吉遺跡（昭和46年度調査、縄文中期曾利II式～後期加曾利B式）があり、法能字宮原の尊徳寺西側には、縄文前期猪俣b式～後期猪俣之内I式の遺物の散布が濃密な宮原遺跡がある。幸いにも、今回のバイパス予定線からは、これらの遺跡は、はずれているようである。第1地点（西原）は、菅野川を北側に見る河岸段丘上にあり、標高は、486.0mで、休耕田に試掘場を入れた。第2・第3地点（宮原）は、菅野川と戸沢川の合流する河岸段丘の端に位置し、休耕中の畑地に試掘場を入れた。標高は、第2地点・477.0m, 第3地点・469.6mである。

玉川地区（略号 TM）

菅野川と戸沢川の合流地点から東方に望む河岸段丘上に立地する地区である。合流地点より戸沢川上流約1.2kmに桃曾根遺跡（縄文中期新道式～曾利式）があり、菅野川上流約1.5kmには住吉遺跡がある。

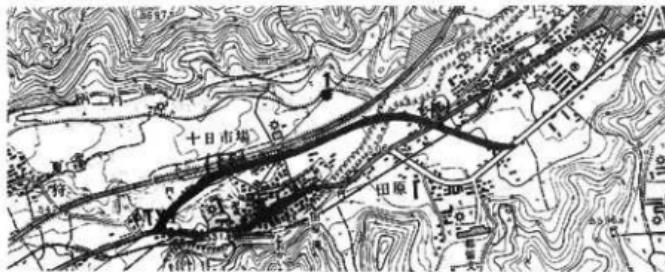
四日市場生出山に立地する生出山山頂遺跡（昭和52年発掘、縄文早期・弥生中期）の東南の峰にある阿夫利神社から、南方100mの休耕中の畑地を第2地点、同200mの桑畠を第1地点として試掘場を設定した。標高は、第1地点・477.0m, 第2地点・478.0mである。

井倉地区（略号 I）

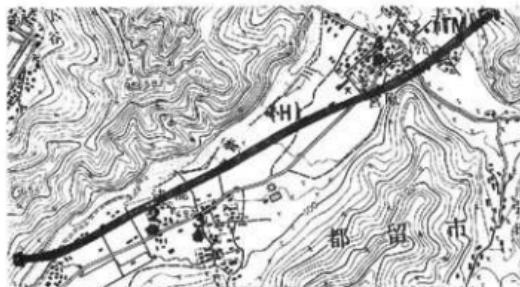
生出山山頂から南東に伸びる尾根と九鬼山に挟まれた谷間に広がる地区である。この地区的第1～第3地点は朝日川によって形成された河岸段丘上に立地し、東方約100mに県道四日市場～上野原線と朝日川を望む。標高は第1地点・435.0m、第2地点・432.0m、第3地点・432.6mである。第4・第5地点は、朝日川と菅野川に挟まれた段丘上に立地し、この周辺には、周知の遺跡である美通遺跡（昭和47年発掘、縄文早期～中期）があり、バイパスはこの東側を通過する予定のため、重点地区として試掘調査を行なった。第4地点は、休耕中の畑地で、標高418.4m、第5地点も同じく休耕中の畑地で、標高415.1mである。

九鬼地区（略号 Ku）

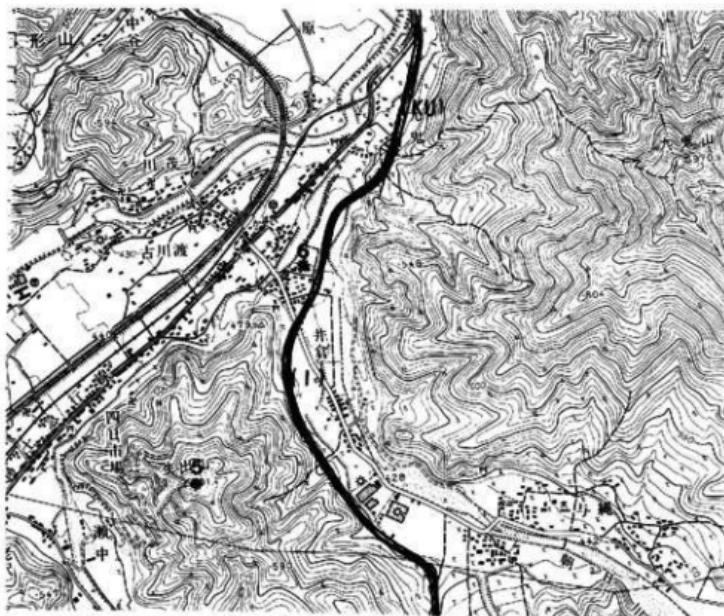
九鬼山の頂から北面に広がる斜面に立地する地区である。九鬼山の山腹傾斜地を第1地点、バイパス予定線が東電水路と接する地点を第2地点とした。第1地点は、山腹の台地上の畑地に立地し、標高432.0mである。第2地点は、東電水路の東側の桑畠で、標高406.0mである。



四日市場地区・上谷地区バイパス予定線



法能地区・玉川地区バイパス予定線



井倉地区・九鬼地区バイパス予定線

バイパス通過予定地の周辺遺跡

名	遺跡名	地区	種類・内容	時期
1	馬々舟	十日市場	包藏地	諸磯C式
2	住吉	法能	住居址(曾利Ⅲ式)	曾利Ⅱ式～加曾利B式
3	海戸	"	工事中に出土のため不明	曾利V式～加曾利E4式
4	宮原	"	未調査	諸磯b式～堀之内I式
5	生出山山頂	四日市場	住居址(押型文)・包藏地 (弥生)	押型文・弥生中期
6	美通	井倉	包藏地	土師器(平安期)
				押型文～曾利V式

参考文献

- (1) 住吉遺跡発掘調査報告書 都留市教育委員会 昭和47年刊
- (2) 馬々舟遺跡発掘調査報告書 都留市教育委員会 昭和51年刊
- (3) 史蹟5 山梨県史学研究会 昭和50年
- (4) 丘陵1-3・4 甲斐丘陵考古学研究会 昭和52年
- (5) 都留市の先史遺跡(II) 都留市教育委員会 昭和51年刊

3 調査の経過及び結果

1. 十日市場地区

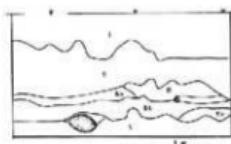
I 十日市場第1地点 (TYM1)

- 所在 地 都留市十日市場字山梨
- 調査期日 昭和53年8月1日・2日
- 調査者 和田 保・守安幸代・岩田雅男・大野陽子
- 調査状況

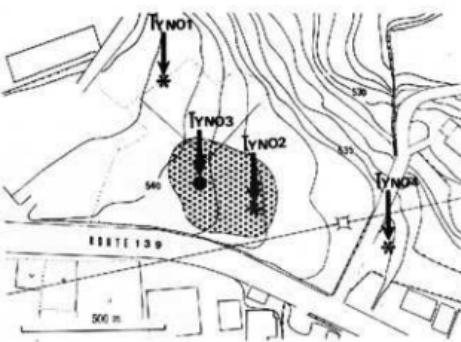
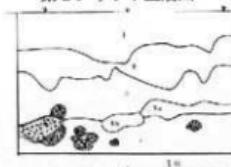
本地点は、国道139号と、予定されているバイパスとの分岐点に位置し、標高540.4mである。休耕中の畠地に2m×2mの試掘坑を2個(第1・第2グリット)設定する。

第1・第2グリットとともに、現地表より-110cmで疊層(大明見溶岩?)に当たる。

第1グリット土層図



第2グリット土層図



第1図 十日市場地区第1地点～第4地点地形図

第I層 耕作土層 第V層 溶岩

第II層 黒褐色土層(黄色スコリアを含み、粘性は弱い)

第III層 暗褐色土層(黒色スコリアを含み、粘性は弱い)

第IVa層

第IVb層 スコリア・疊(溶岩)混じりの暗褐色土層

第IVc層

第I層 耕作土層 第V層 溶岩

第II層 黒褐色土層(黄色スコリアを含み、粘性は弱い)

第III層 暗褐色土層(黒色スコリアを含み、粘性は弱い)

第IVa層

スコリア・疊(溶岩)混じりの暗褐色土層

第IVb層



第2図 十日市場第1地点

発掘風景

120cm掘り下げるとき溶岩に当たり、それ以上、掘ることは困難であった。

5. 出土遺物 なし

II 十日市場第2地点 (TYM2)

- 所在地 都留市十日市場字山梨
- 調査期日 昭和53年8月1日~2日
- 調査者 喜多主介・平本信雄・落合佐敏・森下佳代子・石原喜恵子
- 調査状況

表面調査によって確認した
弥生式土器の散布地の東側に,
第1・第2グリットを設定する。
両グリットとともに, 20cm
程掘り下げるに溶岩に当たった。
地表より50cmまで掘り
下がるが, それ以上, 掘り進む
ことは困難であった。

○第1・第2グリット土層状態

第I層 表土層

第II層 黒褐色土層

黄褐色スコリアを含有す
る。

第III層 溶岩

上部では多孔質・単体
で不定形のものが多く,
下部に行くにつれて, 小
さく丸みを帯びてくる。

5. 出土遺物 なし



第3図 十日市場第2地点発掘風景



第1グリット土層図



第2グリット土層図



第4図 十日市場第3地点第2グリット発掘風景

III 十日市場第3地点 (TYM3)

- 所在地 都留市十日市場字山梨
- 調査期日 昭和53年8月1日~2日
- 調査者 喜多主介・平本信雄・
片山雅文・長谷川修・
宍戸美智子・須藤夕子
・藤岡正治

4. 調査状況

表面採集によって確認した弥生式土器の散布地に、第1・第2グリットを設定する。地表より50cm程掘り下げるところ溶岩に当った。第1グリット溶岩上面にて、弥生式土器1片が出土した。第2グリットからは、遺物の出土はなかった。この地点では、すでに、宅地造成によって、遺物包含層が破壊されていると思われる。

○第1グリット土層状態

第I層 表土層

第II層 黒褐色土層

(黄褐色スコリアを含有)

第III層 暗黒褐色土層

第IV層 茶褐色土層

(5mm 大のスコリアを含有)

第V層 喰茶褐色土層

第VI層 スコリア層

赤色及び灰色のスコリア
が帶状に層をなしている

第VII層 黒色土層

第VIII層 溶岩

○第2グリット土層状態

第I層 表土層

第II層 黒褐色土層

(黄褐色スコリアを含有)

第III層 暗黒褐色土層

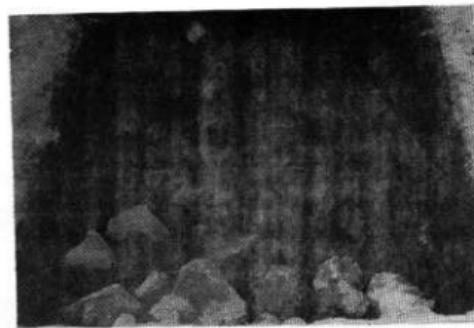
第IV層 茶褐色土層

(5mm 大のスコリアを含有)

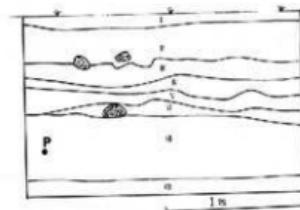
第V層 砂（溶岩）

混じりの褐色土

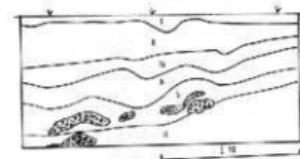
第VI層 溶岩



第5図 十日市場第3地点第1グリット



第1グリット土層図



第2グリット土層図



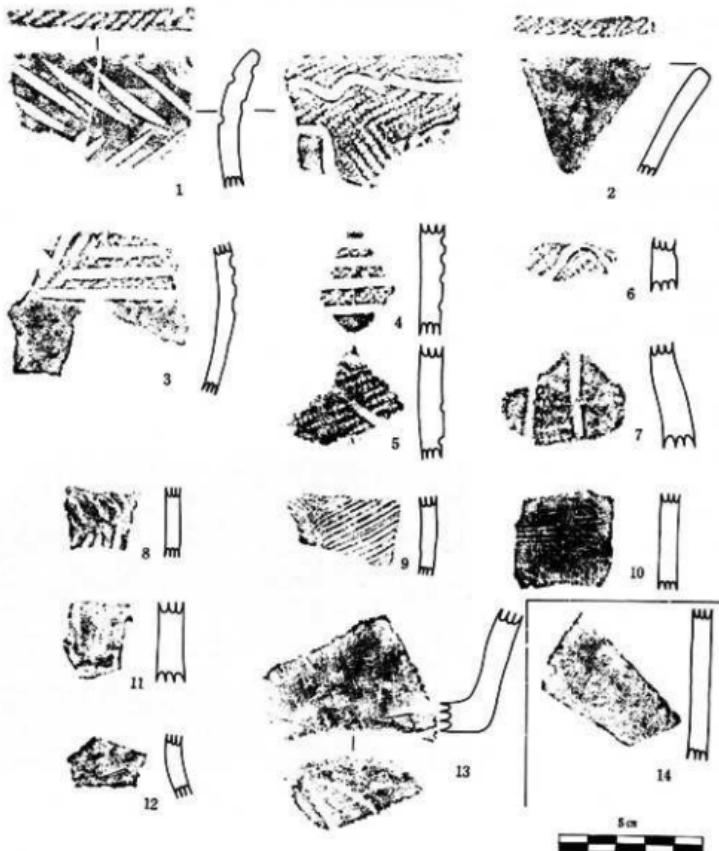
第6図 十日市場第3地点第1グリット遺物出土状況

5. 出土遺物（第7図）

第2・第3地点を中心として、表面採集によって弥生中期の土器片40点を採集した。

また、第1グリット第Ⅳ層より弥生式土器片1点が出土した。

1・2は口縁部の破片で、口唇部にRLの縦文が施文されている。このうち、1は、器外面に棒状施文具によって羽状文が、器内面には、RL・LRの2本の原体による羽状縦文を地文として棒状施文具によって沈線文が、施されている。2は、無文である。3～12・14は、脛部の破片で、3～6は、LRの縦縞文を地文に、棒状施文具によって沈縦文が、7・8は、無文地に棒状施文具によって沈縦文が、9は、櫛状施文具によって条縞文が、10～12は、無文地に刷毛目状文が、施されている。14は、無文である。13は底部の破片で、木ノ葉の圧痕が認められる。



V 十日市場第4地点 (TY.64)

1. 所在地 都留市十日市場字

山梨

2. 調査期日 昭和53年8月1日

～2日

3. 調査者 平野俊彦・平林彰

・山根則子・日向容
子・鈴木利幸

4. 調査状況

休耕中の畑地に、第1・第2グ

リットを設定する。ここは、TY

地点が所在する台地の先端部に位置する。

第8図 十日市場第4地点第1グリット

地表より20cm程掘り下げるところ、砾(溶岩)が露出し、70cm程掘り下げたが、それ以上は困難であった。

○第1・第2グリット土層状態

第I層 新耕土層

第II層 黒褐色土層

粒子は細かく、粘性を
おびている。

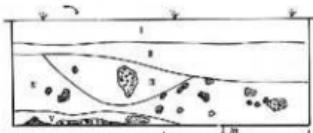
第III層 黄褐色土層

砾が少量混入し、粒子
が細かい。

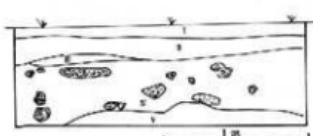
第IV層 碎混入褐色土層

第V層 溶岩

5. 出土遺物 なし



第1グリット土層図



第2グリット土層図

V 十日市場第5地点 (TT.65)

1. 所在地 都留市十日市場字寺前

2. 調査期日 昭和53年8月3日

3. 調査者 鈴木達仁・増田広志・

・緒方公彦・平佐枝子・
鈴木利幸

4. 調査状況

休耕中の畑地に、第1・第2グ

リットを設定する。現地表より70cm

程でローム層に至った。この地点では、



第9図 十日市場第5地点地形図

TY No.1～No.4で認められた溶岩は、認められなかった。

○第1・第2グリット土層状態

第I層 耕作土層

第II層 暗黒褐色土層

黄褐色スコリアを含有し

粘性は弱い。

第III層 スコリア層

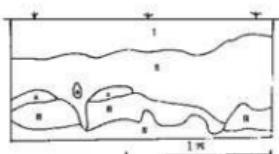
赤色のスコリアにより層

を形成する。

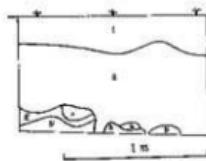
第IV層 ローム層

(スコリアを少量含む。)

5. 出土遺物 土師式土器破片1点



第1グリット土層図



第2グリット土層図

2. 上谷地区

I 上谷第1地点 (K.M.1)

1. 所在地 都留市上谷字四ノ側

2. 調査期日 昭和53年8月3日

3. 調査者 相良雅男・新藤恭子
喜多圭介・浜田広明・大崎裕美

4. 調査状況

桂川右岸の台地先端部に位置する
休耕中の水田IC, 第1・第2グリット
トを設定する。両グリットとも、地
表より120cm程で、ローム層に至る。

○第1・第2グリット土層状態

第I層 耕作土

第II層 茶褐色土層(黄褐色のスコリアを含有する。)

第III層 スコリア層

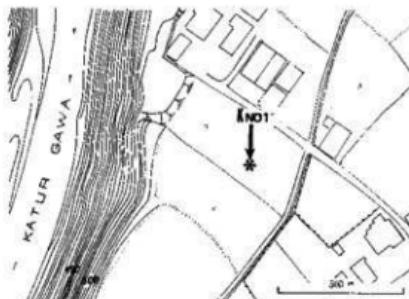
第IV層 黒褐色土層

第V層 ローム断続
層

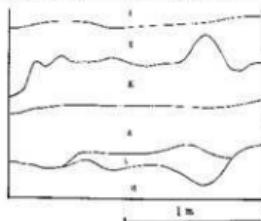
第VI層 ローム層

5. 出土遺物

縄文早期の土器片

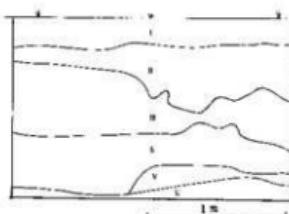


第10図 上谷第1地点地形図



1点が第1グリット

第1グリット土層図



第2グリット土層図

第V層より出土。

II 上谷第2地点 (KAN2)

1. 所在地 都留市上谷字三ノ側

2. 調査期日 昭和53年8月4日
・ 5日

3. 調査者 千野俊彦・山根則子
・ 平林 彰・日向容子・鈴木利幸

4. 調査状況

休耕中の水田に、第1・第2グリットを設定する。第2グリット第V層中より土器片16点出土した。包含層はかなり破壊されている模様で、近接した第1グリットからは、出土遺物はみなかった。

○第1・第2グリット土層状態

第I層 耕作土

第II層 赤褐色土層 (水田のまさ,
黒色含有物が含まれる。)

第III層 茶褐色土層 (少量の黄褐色
スコリアを含有する。)

第IV層 暗茶褐色土層 (粒子が細か
く、穢(溶岩)を含有する。)

第V層 黒褐色土層 (黄褐色スコリ
アを含み粒子が荒い。)

第VI層 ローム漸移層 (くすんだ黃
褐色上で疊(溶岩)を含有
する。)

第VII層 ローム層

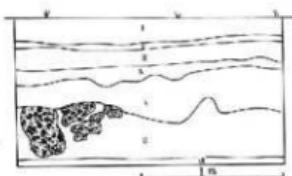
5. 出土遺物 (第12図)

第2グリット第V層中より土師式土器片 (杯・カメ) が16点出土した。

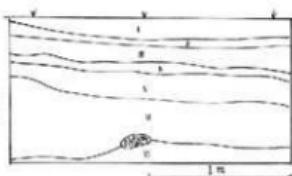
1~3は、杯の口縁部の破片で、1の器内面には鋸歯状の暗文が認められる。4~5は、底部の破片で、5は糸切り底であるが、糸切り後、ヘラで調整がなされている。



第11図 上谷第2地点地形図



第1グリット土層図



第2グリット土層図

III 上谷第3地点

1. 所在地 都留市上谷一ノ側

2. 調査期日

昭和 53 年 8 月 5 日

3. 調査者

和田 保・守安幸代

岩田雅男・大野陽子

4. 調査状況

天神バイパスに面し

た休耕中の畑地にグリ

ットを設定する。現地

表より 190 cm でロ

ーム層に至る。

○ 土層状況

第Ⅰ層 耕作土層

第Ⅱ層 茶褐色土層（赤色スコリアを含有する。）

第Ⅲ層 スコリア層（赤色スコリアによって層が形成されている。）

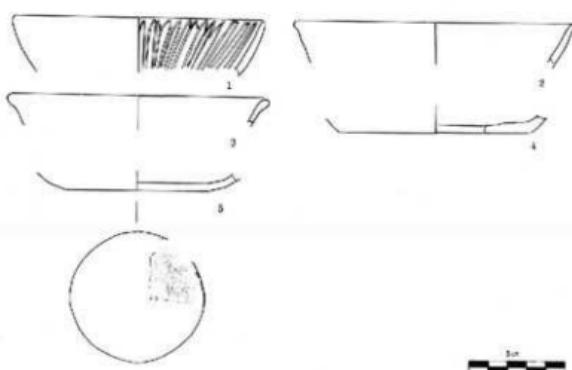
第Ⅳ層 暗茶褐色土層（粘性は強く、粒子が細かく、粘性がある。）

第Ⅴ層 黒色土層（粘性は強く、粒子が細かい。）

第Ⅵ層 暗黒色土層（赤色スコリアを少量含有している。）

第Ⅶ層 ローム漸移層（赤色スコリアを含有する。）

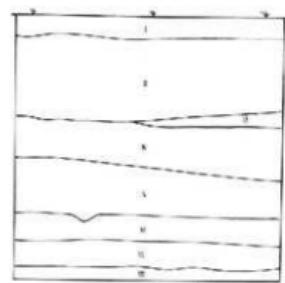
第Ⅷ層 ローム層（黄色で粘性が強い。）



第1-2図 上谷第2地点遺物実測図



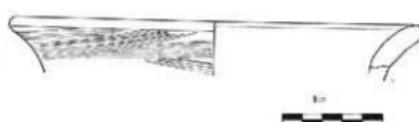
第1-3図 上谷第3地点地形図



グリット土層図

5. 出土遺物

第Ⅶ層中より、土師式土器カメの口縁部
破片が、1片出土した。



第1-4図 上谷第3地点遺物実測図

3. 法能地区

I 法能第1地点 (H.NO1)

- 所在地 都留市法能字西原
- 調査期日 昭和53年8月6日
・ 7日

- 調査者 和田 保・守安幸代
・ 大野陽子・鈴木利幸

4. 調査状況

菅野川右岸に位置する段丘上の休耕田にて、第1・第2グリットを設定する。現地表面より、50~60cm程度砂礫層に当たる。両グリット共に90cmまで掘り下がるが、それ以上掘り進むことは困難であった。

○第1・第2グリット土層状態

第I層 耕作土

第II層 赤褐色土層 (水田のまさ)

第III層 茶褐色土層 (柔かく粒子
が細かい)

第IV層 暗茶褐色土層 (黒色のヌ
コリアを含有する)

第V層 黒褐色土層 (粒子は非常
に細かく、粘性はやや弱い)

第VI層 砂礫層 (黄味を帯びた粒
子の細かい砂礫で形成さ
れる)

第VII層 砂礫層 (青・白・黄色の
砂礫・砂利で形成される)

第VIII層 砂礫層 (ローム混入の茶
色の砂利で形成される)

5. 出土遺物 なし



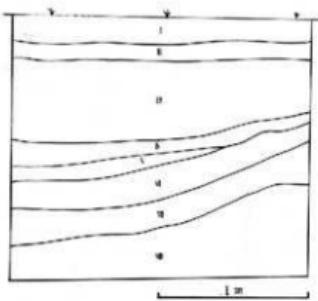
第15図 法能第1地点地形図



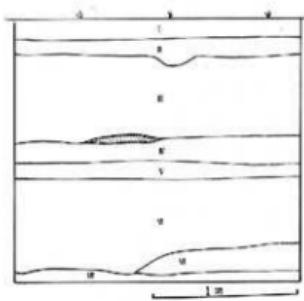
第16図 法能第1地点発掘風景



第17図 法能第1地点第2グリット土層状態



第1グリット土層図



第2グリット土層図

II 法能第2地点 (H-NO2)

1. 所在地 都留市法能字宮原
2. 調査期日 昭和53年8月6日
・7日
3. 調査者 相良雅男・新藤恭子
・鈴方公彦・大崎裕美
4. 調査状況
休耕中の畠地に近接して、第1・第2グリットを設定する。現地表より、第1グリット170cm、第2グリット190cmで、ローム層に至る。



第18図 法能第2地点地形図

○第1グリット土層状態

- 第I層 耕作土
- 第II層 茶褐色土層
- 第III層 スコリア層
- 第IV層 暗茶褐色土層
- 第V層 黒色土層
- 第VI層 黑褐色土層
- 第VII層 ローム漸移層
- 第VIII層 ローム層

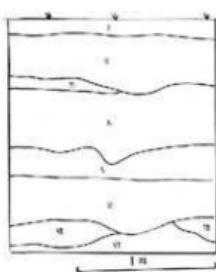
○第2グリット土層状態

- 第I層 耕作土
- 第II層 茶褐色土層
- 第III層 暗茶褐色土層

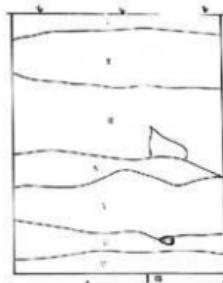


第19図 法能第2地点発掘風景

- 第IV層 黒色土層
 第V層 黒褐色土層
 第VI層 ローム漸移層
 第VII層 ローム層
 (a) ロームブロック
 5. 出土遺物 なし



第1グリット土層図



第2グリット土層図

III 法能第3地点 (HAK3)

- 所在地 都留市法能宮原
- 調査日 昭和53年8月8日
・ 9日
- 調査者 和田 保・守安幸代
・ 大野陽子・鈴木利幸
- 調査状況

戸沢川の左岸に位置する宮原地区は古くから、宮原遺跡として知られている場所である。この宮原遺跡の東側の範囲を確認する目的で、休耕中の畑地に、第1・第2グリットを近接して設定した。現地表から、140cm程で砂礫層に当たる。

○第1・第2グリット土層状態

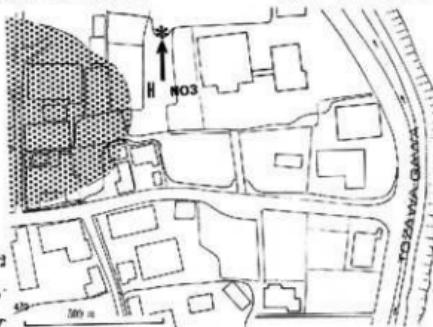
- 第I層 耕作土
 第II層 茶褐色土層
 第III層 暗茶褐色土層(粘性なし)
 第IV層 スコリア層
 第V層 暗茶褐色土層(粘性強)

第VI層 砂礫層

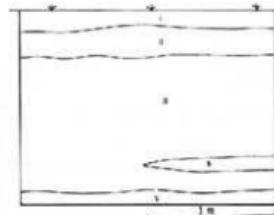
(河砂利)

5. 出土遺物 (第21図)

調査地点周辺より、表面採集によって8片採集した。その内、縄文式土器片は4点、土師式土器片は4点であった。

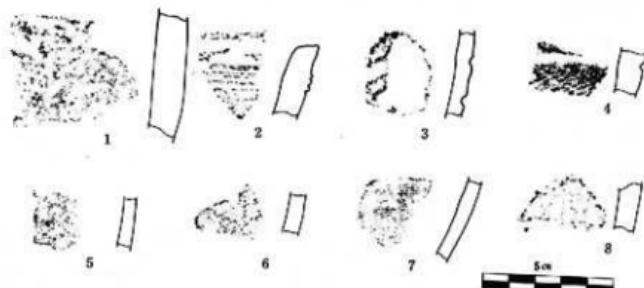


第20図 法能第3地点地形図



第2グリット土層図

第1グリット土層図



第21図 法能第3地点遺物拓影図

4. 玉川地区

I 玉川第1地点 (TM NO.1)

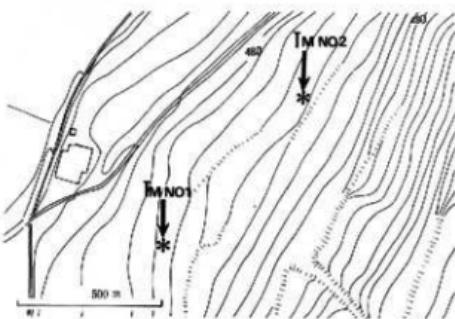
1. 所在地 都留市玉川
2. 調査期日 昭和53年8月10～12日
3. 調査者 喜多圭介・落合佐敏・室井祐子

4. 調査状況

戸沢川右岸に形成された河岸段丘上の斜面に位置する桑畠に、グリットを設定。斜面のため堆積は厚く、現地表より350cmまで掘り下げたが、ローム層には至らなかった。

○土層状態

- 第Ia層 耕作土層（灰褐色を呈し、スコリア粒子を含む。）
- 第Ib層 耕作土層（灰褐色を呈し、粒子大きく、粘性弱い。）
- 第Ic層 耕作土層（灰褐色を呈し、粘性が弱い。）
- 第Id層 耕作土層（灰褐色を呈し、粒子細かく粘性が強い。）



第22図 玉川第1・第2地点地形図



第23図 玉川第1地点発掘風景

第Ⅱ層 スコリア層（赤・灰・黄色スコリア粒子により形成され、粒子が荒い。）

第Ⅲ層 スコリア層（赤・灰・黄色スコリア粒子により形成され、粒子が細かい。）

第Ⅳ層 小礫層（赤・灰・黄色スコリア粒子を含み小礫を多量に含有する。）

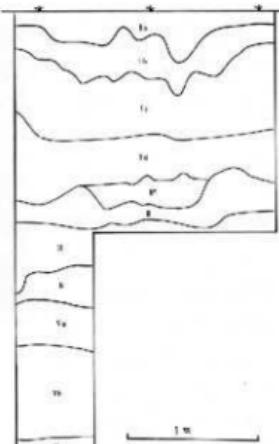
第Ⅴa層 黒色土層（粘性はやや弱く、粒子は小さい、黄色スコリアを含有する。）

第Ⅴb層 黒色土層（粘性はやや弱く、粒子は小さい、小礫を含む。）

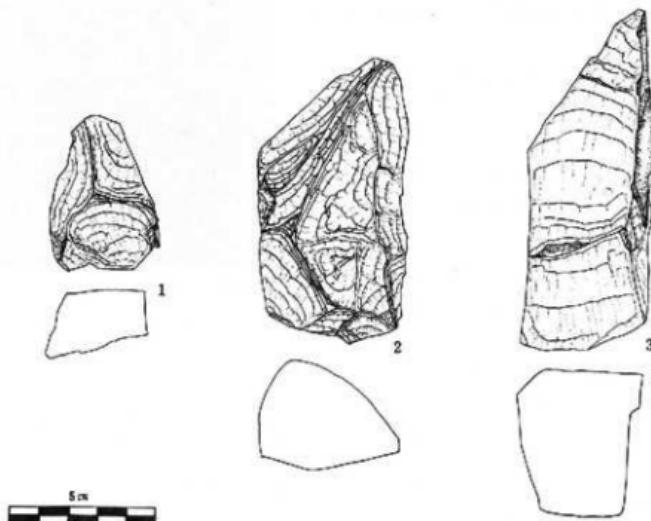
第Ⅴc層 黒色土層（粘性は弱く、粒子は大きい、小礫を含む。）

5. 出土遺物（第24図）

第Ⅰc層より弥生式土器片1点出土。又、第Ⅳ層より小礫に混じって人為的加工が認められる石核・剝片が出土。同様に第Ⅴ層からも人為的に加工されていると思われる石核・剝片が出土した。第Ⅳ・Ⅴ層ともに、土器が伴出しなかった為、時期は不明であるが、石器の製作址としての可能性も推察される。



第1グリット土層図



第24図 玉川第1地点遺物実測図

III 玉川第2地点 (TMK2)

- 所在地 都留市玉川
- 調査期日 昭和53年8月11日
～12日
- 調査者 鈴木達仁・宮野晴美
増田広志・平佐枝子
- 調査状況

玉川第1地点より一段高い段丘の斜面に位置する休耕中の畠地に、近接して第1・第2グリットを設定。両グリットとともに現地表より150cm程掘り下げた所でロームに至る。

○第1・第2グリット土層状態

第I層 耕作土

第II層 茶褐色土層（黄色スコリア粒子を多量に含有）

第III層 暗褐色土層（黄・黒色スコリア粒子を含有）

第IV層 黒色土層（粘性が弱い）

第V層 黒色土層（粘性が強く、黒色の強い色調を呈する）

第VI層 ローム漸移層（粘性が強く、栗色に近い色調を呈する）

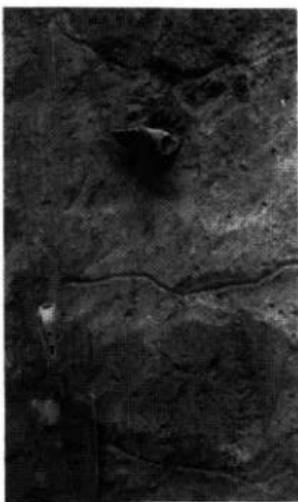
第VII層 ローム層（粒子が荒く、赤色スコリア粒子を含有する）

5. 出土遺物（第27図）

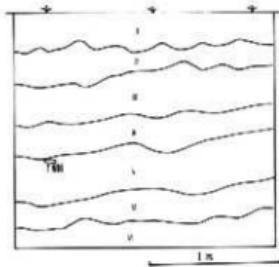
第1グリット第V層上面より、2点の礫石器の出土をみた。しかし、伴出土器が無かった為に、時期は不明である。



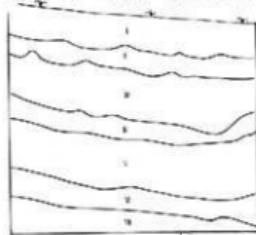
第25図 玉川第2地点発掘風景



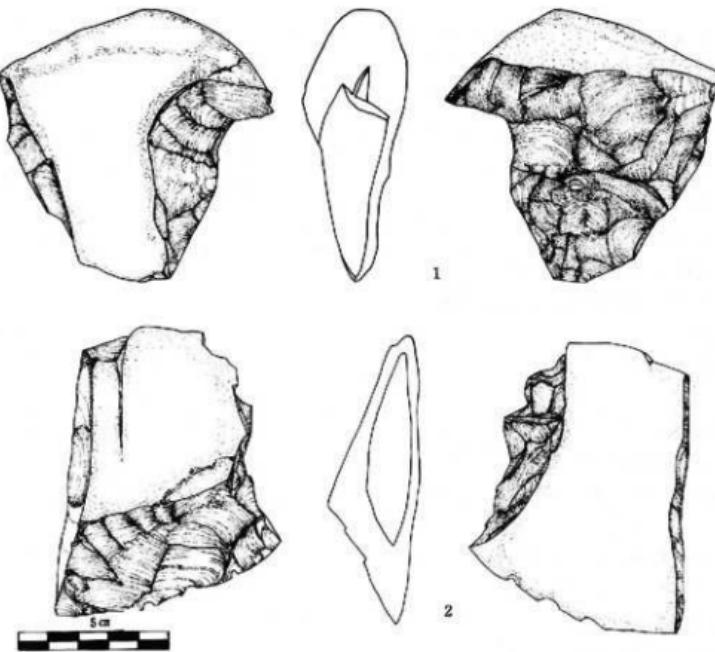
第26図 玉川第2地点石器出土状態



第1グリット土層図



第2グリット土層図



第27図 玉川第2地点石器実測図

5. 井倉地区

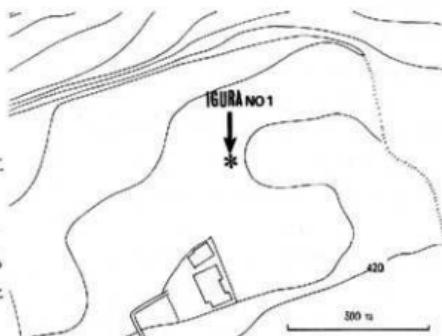
1 井倉第1地点 (I.M.1)

1. 所在地 都留市井倉
2. 調査期日 昭和53年8月13日
・ 14日
3. 調査者 工藤信一郎・伊藤修二
4. 調査状況

朝日川左岸の段丘上の桑畑に第1・第2グリットを設定。両グリットともに、現地表より130cmで疊層に当たる。

○第1・第2グリット土層状態

第1層 耕作土



第28図 井倉第1地点地形図

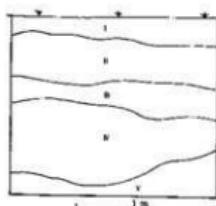
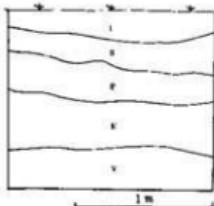
第Ⅱ層 黒褐色土層 (5 cm 前
後の礫を包含し、粘
性は弱く、黄褐色粒
子が少量認められる。)

第Ⅲ層 黒褐色土層 (こぶし
大の礫を包含し、粘
性は第Ⅱ層より強く、
黄褐色粒子が少量認められる。)

第Ⅳ層 黒褐色土層 (3 0 cm ~ 5 0 cm 大の礫を包含する。)

第Ⅴ層 矽層

5. 出土遺物 なし



第1グリット土層図

第2グリット土層図

II 井倉第2地点 (1 & 2)

1. 所在地 都留市井倉

2. 調査期日 昭和53年8月13日
・ 14日

3. 調査者 千野俊彦・山根則子
・平林 彰・日向容子

4. 調査状況

朝日川の右岸に広がるゆるやかな
段丘状の斜面に位置する畑地に、グリッ
リットを設定。地表面から 3 0 0 cm
程掘り下げて、ローム漸移層に至る。

○ 土層状態

第Ⅰ層 耕作土

第Ⅱ層 茶色土層 (粘性無く、粒子は荒く、多量
の小礫を含む)

第Ⅲ層 茶褐色土層 (粘性無く、粒子は荒い。多
量の黄褐色スコリア粒子を含有する。)

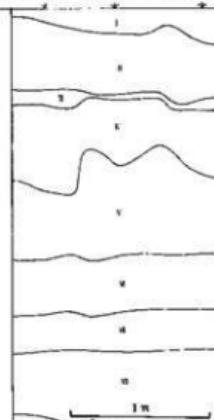
第Ⅳ層 暗茶褐色土層 (粘性は弱く、粒子は荒い。
スコリア粒子を含有する。)

第Ⅴ層 黒褐色土層 (若干の粘性があり、粒子は
細かい。黄色スコリア粒子を含有する。)

第Ⅵ層 暗褐色土層 (粘性を若干もち、粒子は細
かい。)



第29図 井倉第2地点地形図



グリット土層図

第VII層 黒色土層（粘性があり、粒子は細かい。）

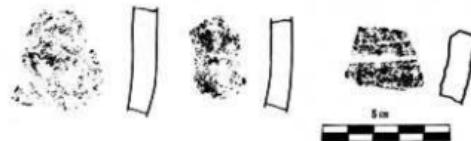
第VI層 ローム漸移層

5. 出土遺物

表面採集によって、

縄文式土器片3点、剝

片2点を採集。



第30図 井倉第2地点土器拓影図

III 井倉第3地点 (IAK3)

1. 所在地 都留市井倉字馬場

2. 調査期日 昭和53年8月16日

・17日

3. 調査者 鈴木達仁・宮野晴美・
増田広志・平佐枝子

4. 調査状況

朝日川左岸の河岸段丘上の畠地に近
接し第1・第2グリットを設定。現地表
から60cm程で、ローム層に至る。

・第1・第2グリット土層状態

第I層 農作土

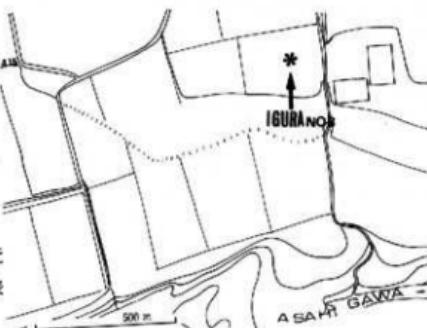
第II層 茶褐色土層（粒子は細かく、
粘性が強い。黄色スコリア粒
子を含有する。）

第III層 暗茶褐色土層（粘性が強く、
黄色スコリア粒子を含有する。）

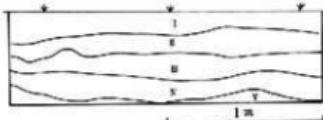
第IV層 黒色土層（粒子は細かく、粘
性が強い。）

第V層 ローム漸移層（黄色スコリア
粒子を含有する。）

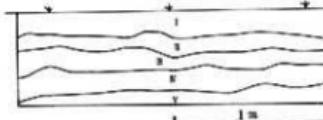
5. 出土遺物 なし



第31図 井倉第3地点地形図



第1グリット土層図



第2グリット土層図

IV 井倉第4地点 (IAK4)

1. 所在地 都留市井倉字美通

2. 調査期日 昭和53年8月16日～18日

3. 調査者 相良雅男・新藤恭子・諸方公彦・大崎裕美・鈴木利幸

4. 調査状況

菅野川・朝日川にはさまれた河岸段丘上に位置する畑に、近接して、第1・第2グリットを設定。現地表より、第1グリットでは、220cm、第2グリットでは、80cmで、ロームに至る。この付近は、美通道路として周知の場所である。今回、当遺跡の範囲を知る意味で、グリットを設けて、調査を実施した。

第1グリットからは、多量の遺物が出

出土した。そこで、遺構の有無を確認する目的で、近接に第1グリット拡張区を設定して調査に当たった。拡張区からもかなりの遺物の出土をみたが、遺構検出までには至らなかった。

○第1グリット土層状態

第I層 耕作土

第II層 暗褐色土層

第III層 暗茶褐色土層

第IV層 黒色土層

第V層 ローム漸移層

第VI層 ローム層

○第2グリット土層状態

第I層 耕作土

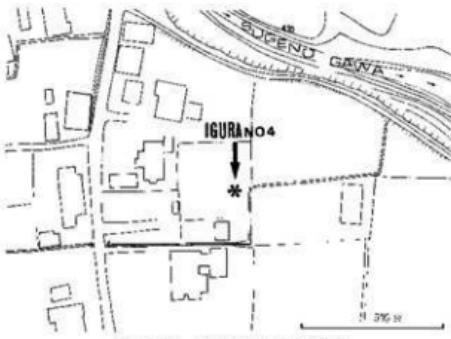
第II層 褐色土層

第III層 暗褐色土層

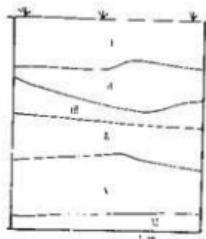
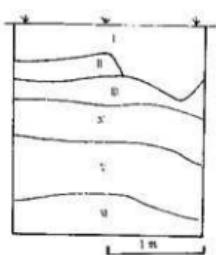
第IV層 黒色土層

第V層 黑褐色土層

第VI層 ローム層



第32図 井倉第4地点地形図



第2グリット土層図

5. 出土遺物(第33図～第43図)

縄文時代早期末葉から、土師器、須恵器の時代まで、かなり広範囲にわたる遺物が出土した。土器は、一括遺物は認められず、すべて小破片であった。これらは、縄文早期末葉の七器・前期黒浜式土器、曾利I・II式土器等が主体であった。石器は、礫器及び剝片等が主体をなしている。

第I層から第VI層までは、かなり土層状態が悪く、様々な時期の遺物が混在していた。第V層はプライマリーな土層で、早期末葉の土器が認められた。礫器・剝片等は、各層にまんべんなく認められた。

〔表面採集〕(第33図、第38図)

編	部 位	施 文 具	文 樣	胎 土	備 考
1	底 部		無 文	纖維有	
2	胸 部	櫛齒狀施文具	山形状刺突文	"	
3	"	"	条 線 文		
4	"	LR	羽 状 繩 文	纖維有	
5	"	RL	貼 付 文		
6	"	RL	棒 狀 施文具	懸 垂 文	
7	口 緑 部		無 文		淺 鍤
8	胸 部		無 文		須 恵 器
9	口 緑 部		無 文		淺 鍤

編	種 別	石 質
1	剝 片	チャート
2	"	頁 岩
3	"	"
4	唐製石斧	
5	"	

[第Ⅱ層] (第33図, 第38図)

編	部 位	施 文 具	文 樣	胎 土	備 考
10	胸 部	櫛齒狀施文具	山形状刺突文	纖維有	早期末葉
11	"	"	"	"	"
12	"	LR, RL	羽 状 繩 文	"	
13	"	RL	单 節 繩 文	"	
14	口 緑 部		無 文		
15	"	LR	棒 狀 施文具		

編	種 別	石 質
6	剝 片	粘板岩
7	"	頁 岩
8	"	チャート
9	礫 器	安山岩

[第Ⅲ層] (第34図, 第38~39図)

編	部 位	施 文 具	文 樣	胎 土	備 考
16	胸 部	櫛齒狀施文具	条 線 文	纖維有	早期末葉
17	口 緑 部	L	無 節 繩 文	"	
18	胸 部	L	单 節 繩 文	"	
19	"	ヘラ状施文具	八字状刺突文		曾利V式

編	種 別	石 質
10	礫 器	安山岩
11	剝 片	頁 岩
12	"	硬砂岩
13	"	黒輝石 角閃石英 閃綠岩
14	礫 器	"
15	"	"
16	"	"
17	"	"

[第Ⅳ層] (第34図, 第39~41図)

編	部 位	施 文 具	文 樣	胎 土	備 考
20	口 緑 部	櫛齒狀施文具	山形状刺突文	纖維有	早期末葉
21	胸 部	"	"	"	"
22	"	"	"	"	"
23	"	半截竹管文	条線文·刺突文	"	"
24	"		無 痕 文	"	"
25	口 緑 部		無 文	"	"

編	種 別	石 質
18	剝 片	安山岩
19	"	"
20	"	"
21	"	チャート
22	"	"
23	"	安山岩

26	口縁部	ヘラ状施文具	連続刺突文	胎土	"	24	"	砂岩
27	"	LR・半截竹管	縫帶文(縫み入り)	繊維有	"	25	"	硬砂岩
28	胴部	RL	単節繩文	"	"	26	礫器	"
29	"	RL	羽状繩文	"	"	27	"	安山岩
30	"	LR・RL	"		黒浜式	28	剥片	石英閃綠岩
31	"	LR・RL+L	"	"	"	29	"	流紋岩
32	"	LR・RL	"	"	"	30	"	花崗岩
33	"	LR・半截竹管	結節沈線文	諸職b式		31	"	硬砂岩
34	"	齒齒状施文具	条線文	諸職c式		32	"	岩
35	"	棒状施文具	縫帶文	井戸尻式		33	礫器	安山岩
36	"	半截竹管	貼付文	曾利I式		34	"	硬砂岩
						35	剥片	安山岩

〔第V層〕(第35図、第41図)

No	部位	施文具	文様	胎土	備考	No	種別	石質
37	胴部	齒齒状施文具	条線文	繊維有	早期末葉	36	礫器	綠泥片岩
38	"	"	刺突文	"	"	37	剥片	硬砂岩
39	"	"	条痕文・刺突文	"	"	38	"	安山岩
40	"	半截竹管	縫帶文(縫み入り)	"	"	39	礫器	"
41	"	擦痕文	"	"	"	40	"	花崗岩
42	"	半截竹管	条線文	"	"	41	剥片	安山岩
43	"	棒状施文具	縫帶文(縫み入り)	"	"	42	"	黑輝石
44	"	"	擦痕文	"	"	43	"	"
45	"	L L R	結節繩文	"	前期	44	"	"
						45	硬砂岩	

抵張部

〔第I層〕(第35図、第42・43図)

No	部位	施文具	文様	胎土	備考	No	種別	石質
1	口縁部	齒齒状施文具	山形状刺突文	繊維有	早期末葉	1	礫器	多孔質安山岩
2	胴部	LR・RL	羽状繩文		諸職b式	2	剥片	安山岩
3	"	齒齒状施文具	条線文+矢張り状貼付		諸職c式	3	礫器	砂岩
4	"	半截竹管	集合沈線文		五領力式	4	剥片	"
5	"	"	条線文		曾利式	5	"	泥岩
6	"	"	"		"	6	"	安山岩
7	"	RL	繩文・貼付文		"	7	"	"
8	"	棒・齒齒状施文具	尤線区+十余條		"	8	"	"
9	"				土師器	9	礫器	泥岩

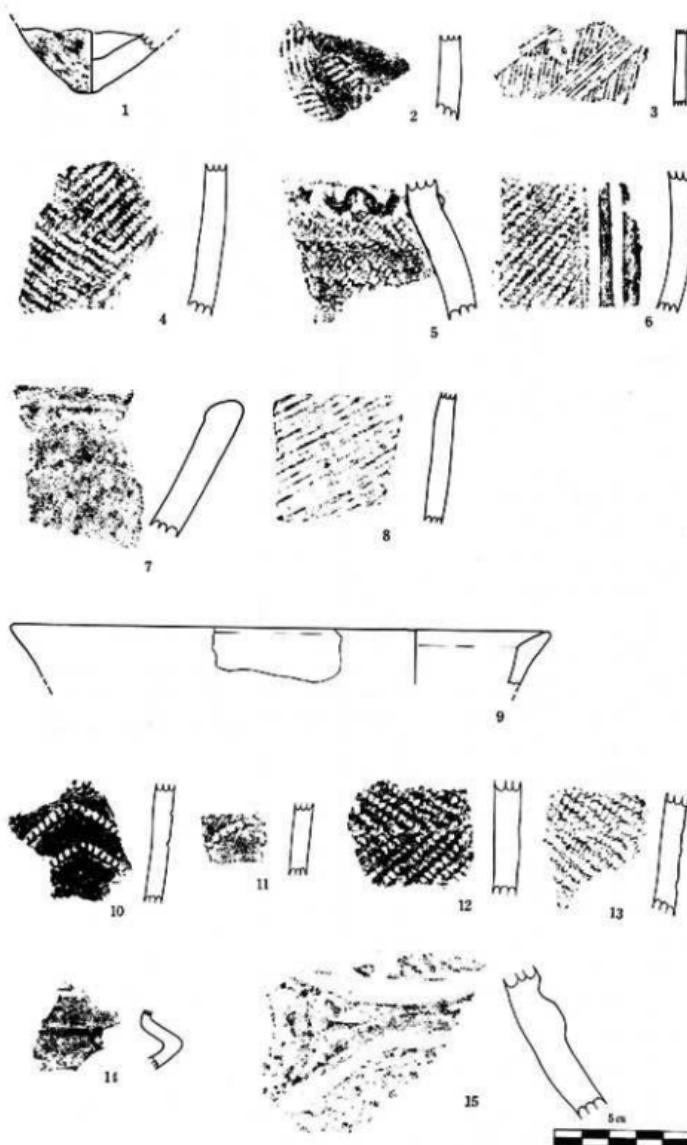
10	剥片	砂岩
11	磨製石斧	閃綠岩
12	剥片	安山岩
13	"	"

〔第II層〕(第36図、第43図)

層	部位	施文具	文様	胎土	備考	層	種別	石質
10	胴部	棒状施文具	刺突文(列点状)	機織有	早期末葉	14	剥片	硬砂岩
11	"	"	"	"	"	15	鍬器	石英閃綠岩
12	"	棒状施文具	(縞帶文細み入り)	"	"			
13	"		無文	"	"			
14	"		擦痕文	"	"			
15	口縁部	半截竹管	条線文 + 結節浮起文		諸職e式			
16	胴部	R L	単節縄文					
17	口縁部		貼付文		曾利Ⅱ式			
18	胴部	棒状施文具	条線文 + 貼付文		"			
19	口縁部	半截竹管	重弧文		"			
20	胴部	R L	縄文 + 貼付文		"			
21	"	棒状施文具	沈線文			土製凹盤		
22								

〔第III層〕(第37図、第43図)

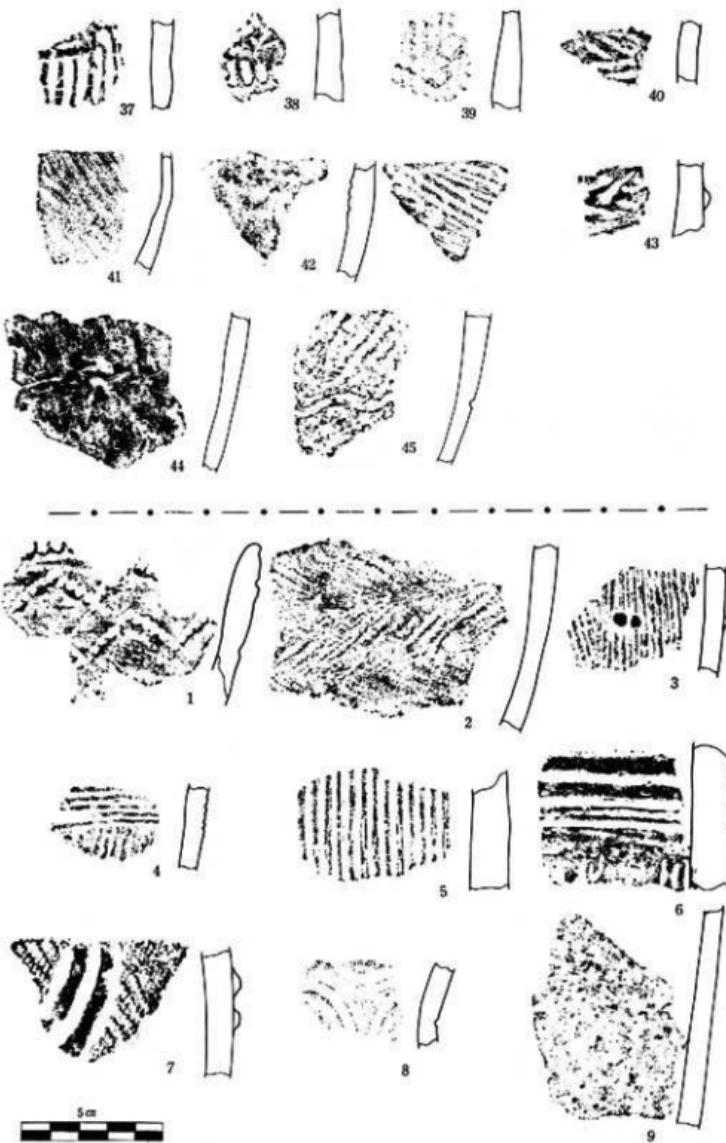
層	部位	施文具	文様	胎土	備考	層	種別	石質
23	胴部	棒状施文具	刺突文(列点状)	機織有	早期末葉	16	剥片	安山岩
24	"	半截竹管	条痕文	"	"			
25	"	棒状施文具	"	"	"			
26	口縁部	半截竹管	条線文 + 結節浮起文		諸職e式			
27	胴部	"	条線文 + 結節沈線文		"			
28	"	棒状施文具			井戸尻式			
29	"	半截竹管			曾利Ⅱ式			
30	口縁部	"	重弧文		"			
31	"	"	"		"			
32	"	棒状施文具	"		"			
33	頭部	半截竹管			"			
34	胴部	R L	縄文 + 貼付文		"			
35	"	L R	"		"			
36	"	R L	単節縄文		"			
37	"	L R	縄文 + 貼付文		"			



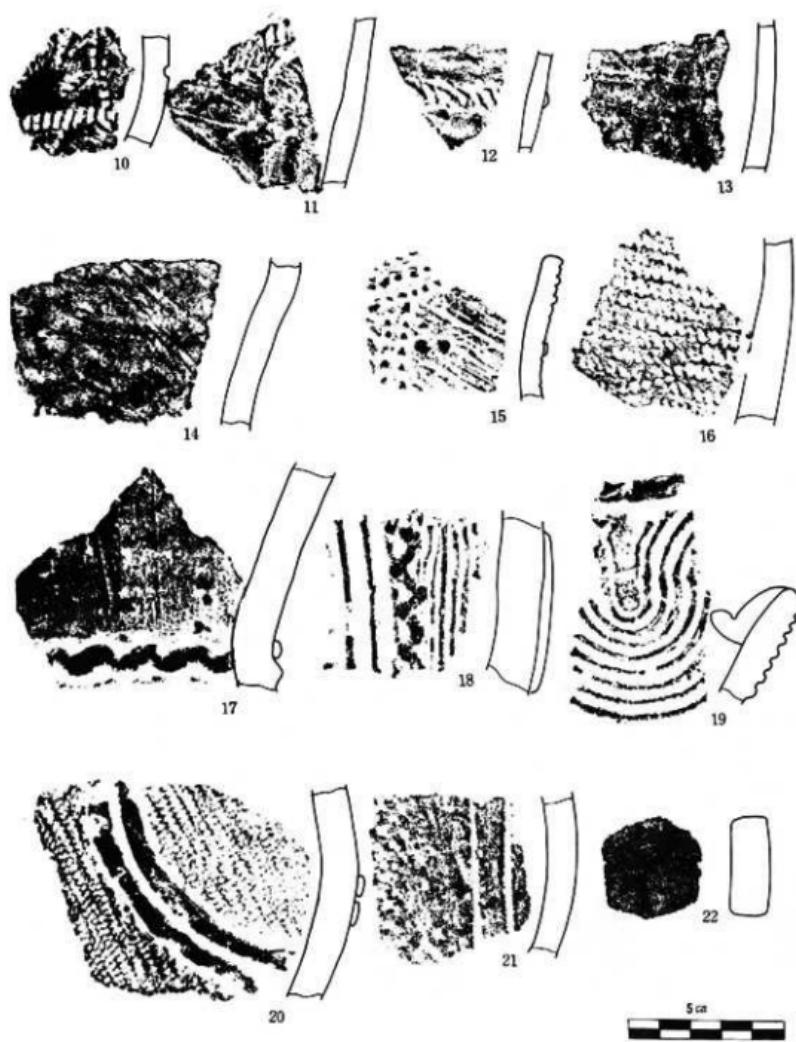
第33図 井倉第4地点 土器拓影図 (1~9, 表採品, 10~15, 第II層)



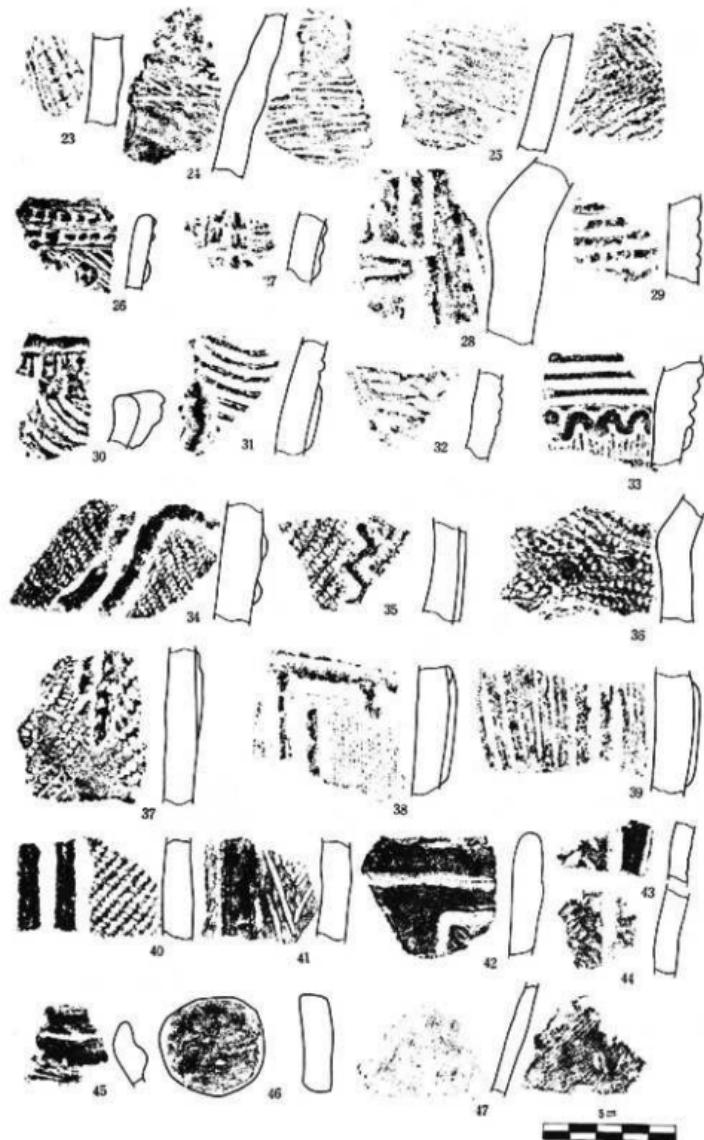
第34図 井倉第4地点土器拓影図(16~19第III層, 20~36第IV層)



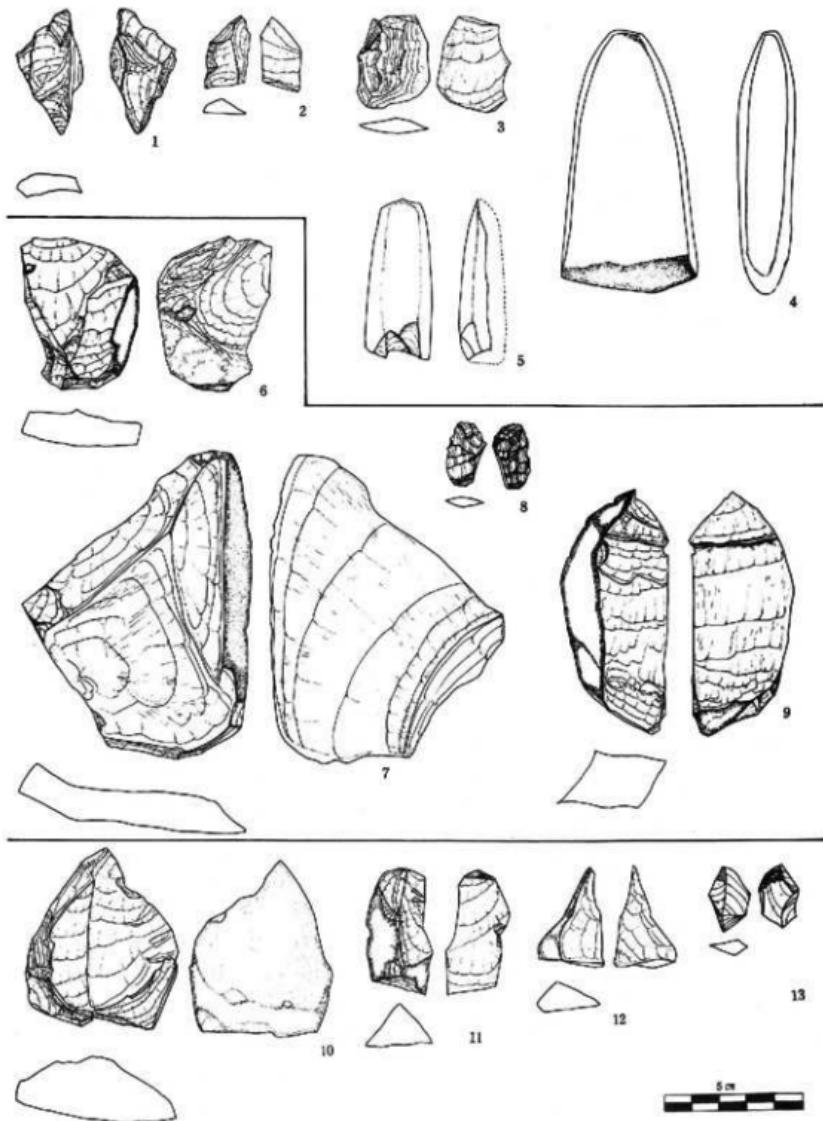
第35図 井倉第4地点土器拓影図 (37~45第V層, 1~9第I層〔拡張部〕)



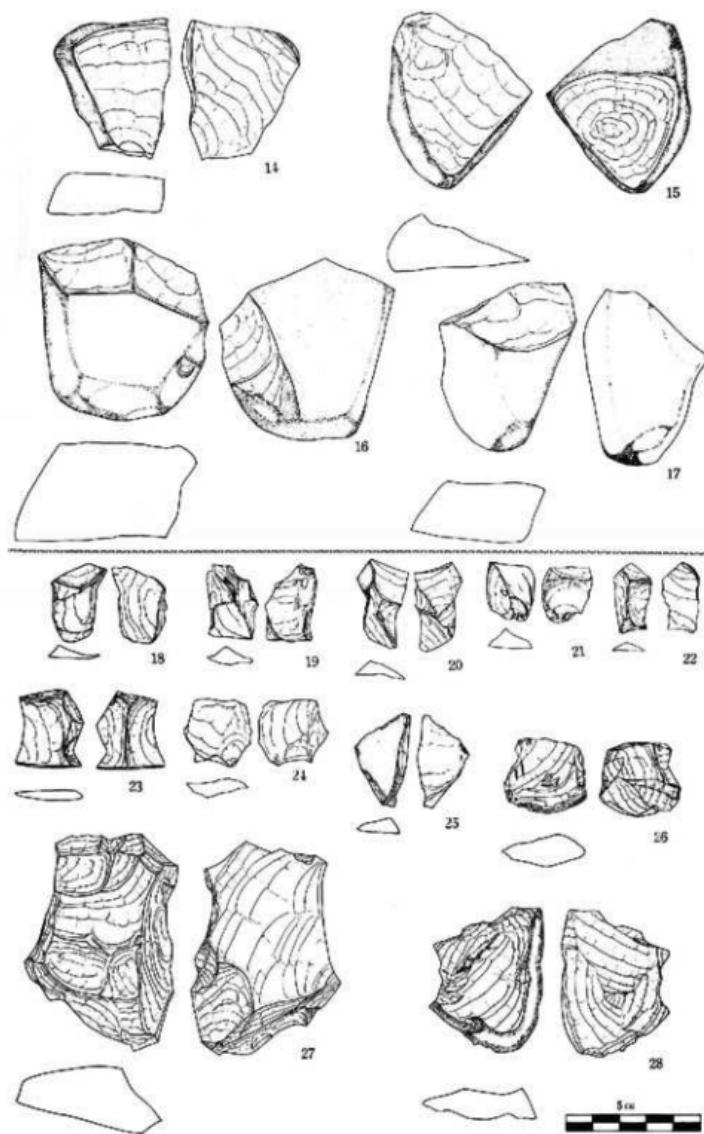
第36図 井倉第4地点土器拓影図(10~22第II層[拡張部])



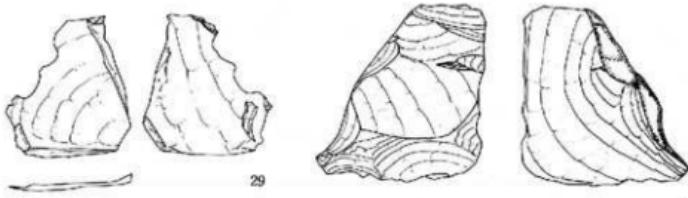
第37図 井倉第4地点 土器拓影図(23～47第III層〔拡張部〕)



第38図 井倉第4地点石器・剝片実測図 (1~5第Ⅲ層, 表採, 6~9第Ⅱ層, 10~13)

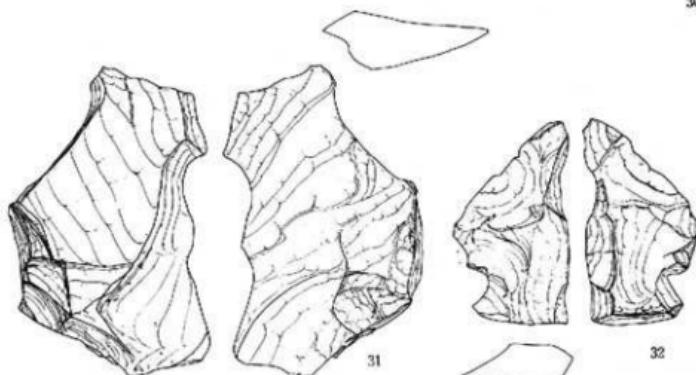


第39図 井倉第4地点石器・剥片実測図（14～17第Ⅲ層，18～28第Ⅳ層）



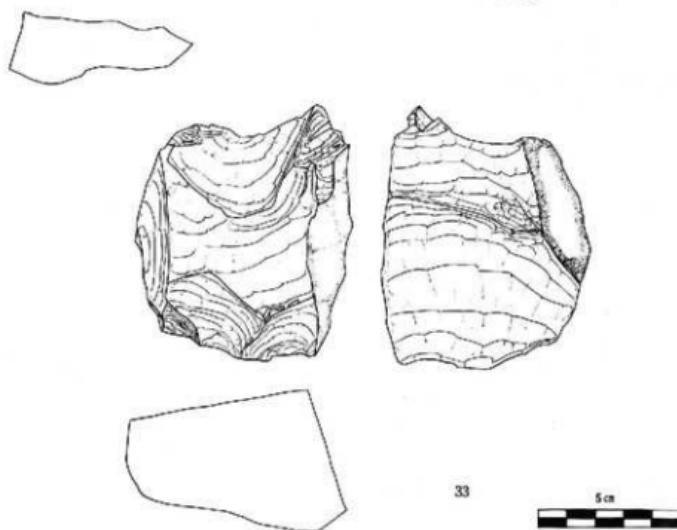
29

30



31

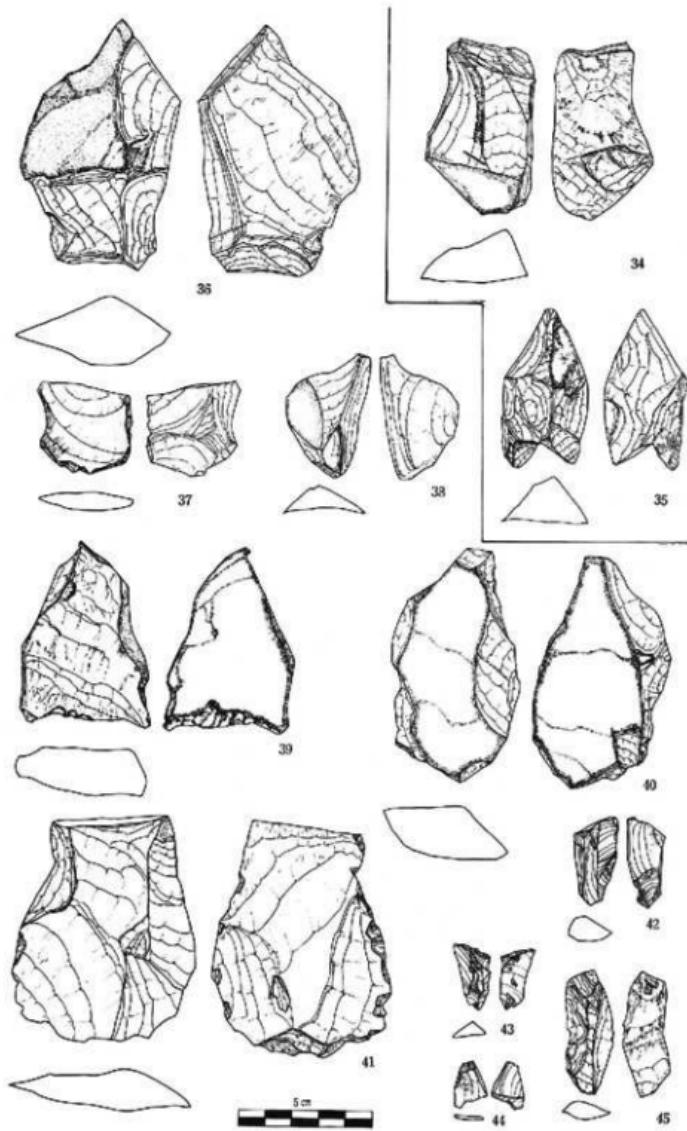
32



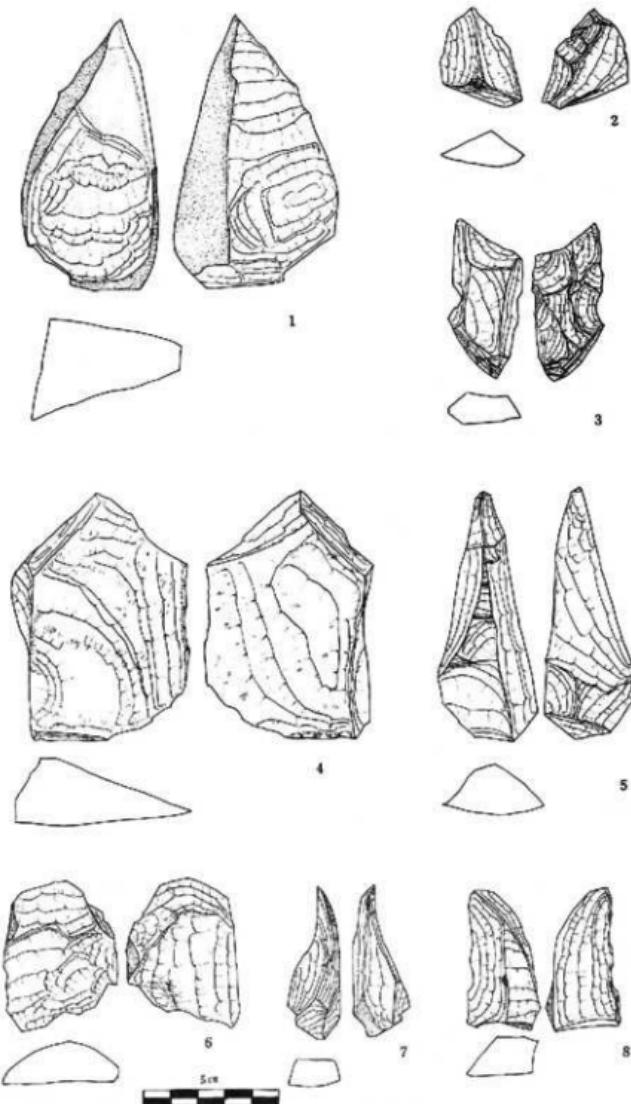
33

5cm

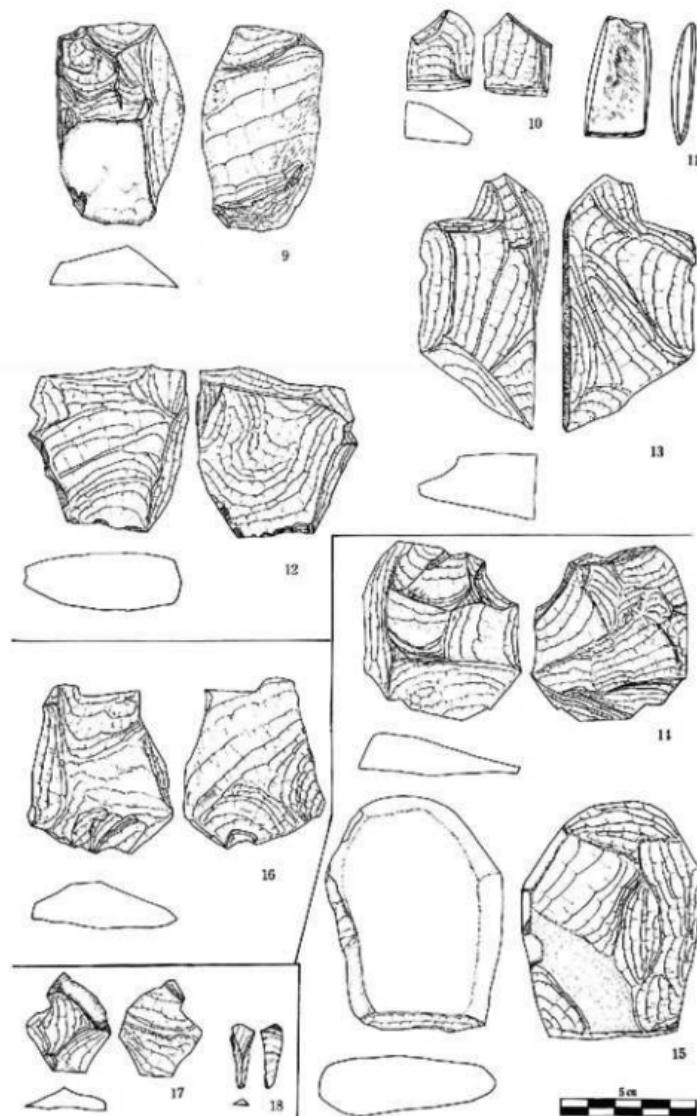
第40図 井倉第4地点石器・剥片実測図(29~33第N層)



第41図 井倉第4地点石器・剥片実測図 (34・35第IV層, 36~45第V層)



第42図 井倉第4地点石器・剥片実測図(1~8, 第I層〔拡張部〕)



第43図 井倉第4地点石器・剥片実測図 (9~13・第I層, 14~15・第II層
16・第III層, 17~18・第V層)
〔拡張部〕

38	"	椭圓状施文具	条線文+貼付文	"
39	"	棒状施文具	条 線 文	"
40	"	RL	縦 文 + 橫 線	曾利Ⅲ式
41	"	半截竹管	八字状沈線文	曾利Ⅴ式
42	口縁部	棒状施文具	沈 線 区 画 文	"
43	脇 部	"	八字状刺突文	"
44	"	椭圓状施文具	"	"
45	口縁部	"	"	"
46	"	"	"	上製内盤
47	脇 部	"	"	土 器

〔第N層〕(第43図)

石種別	石質
17 刺 片	砂 岩
18 極石刃	黑耀刃

V 井倉第5地点 (IA5)

- 所在地 都留市井倉字美通
- 調査期日 昭和53年8月16日
- 調査者 片山雅文・宍戸美智子
長谷川修・須藤夕子
- 調査状況

菅野川・朝日川にはさまれた河岸段丘

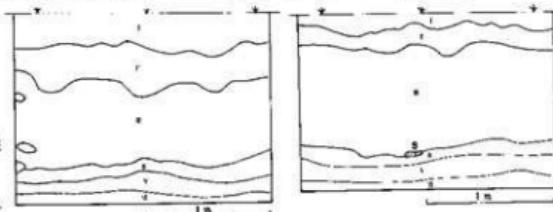
第45図 井倉第5地点地形図

上に位置し、第4地点に近い休耕中の畑地に、第1・第2グリットを設定した。現地表から、第1グリットは-150cmで、第2グリットは-140cmで、それぞれローム層に至る。

○土層状態

- 第I層 梢作土
- 第II層 褐色土
- 第III層 暗褐色土
- 第IV層 黒色土(粘性弱い)
- 第V層 黒色土(粒子

が非常に細か
&粘性強い。)



第1グリット土層図

第2グリット土層図

第VI層 ローム層

- 出土遺物 なし

6. 九鬼地区

I 九鬼第1地点

1. 所在地 都留市田野倉字九鬼
2. 調査期日 昭和53年8月19日
・20日
3. 調査者 平本信雄・室井裕子・
喜多圭介

4. 調査状況

九鬼山の北西麓に広がるなだらかな斜面に位置する。表面採集によって、縄文式土器片など16点を得た。グリットは、表探を行った台地の先端部に設定。第1グリットは、現地表から80cmで、同じく第2グリットは、-60cmでロームに至る。

○土層状態

第I層 耕作土

第II層 黒褐色土層（黒褐色及び赤色スコリアを含有する。）

第III層 暗黒褐色土（赤色スコリアを含有する。）

第IV層 ローム漸移

第V層 ローム層

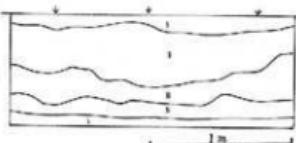
5. 出土遺物（第47図）

グリットからは遺物の出土ではなく、表面採集により、縄文早期茅山式土器2点、前期猪窓期の土器片5点、中期（五領ヶ台・勝坂・加曾利Eの各期）土器片7点、及び須恵器片1点・黒曜石片1点の計16点を得た。

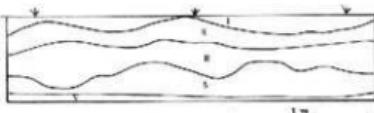
第4図、1～7は、半截竹管によって、爪形文（1.2）、沈線文（3～7）が施文されている。この内、6は、沈線文上にボタン状貼付文が施されている。8.9は、ヘラ状施文具によって格子状（8）爪形文及びジグザグ状沈線文（9）が施文されている。10.11.13.は、棒状施文具によって懸垂文（10）沈線文（11）区画文（13）が施さ



第44図 九鬼第1地点地形図



第1グリット
土層図

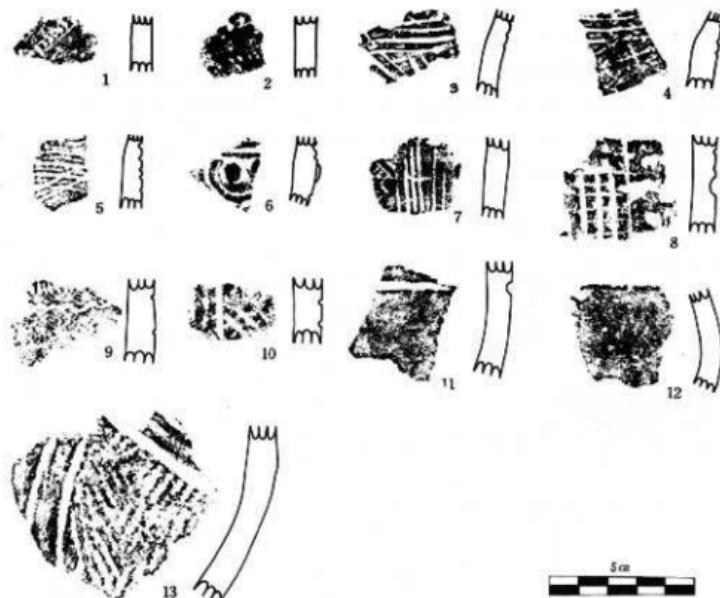


第2グリット土層図



第46図 九鬼第1地点発掘風景

九鬼表探



第47図 九鬼第1地点表探遺物 拓影図

れている。1・3は区画内に縦文(原体LR)が施されている。1・2は無文の土器片である。

以上の土器片は、1~5は諸磧b式に、6は諸磧c式に、7は五領ケ台式に、8・9は藤内式に、10~13は曾利・加曾利E式の新しい段階に、それぞれ比定されるものである。

II 九鬼第2地点

1. 所在地 都留市田野倉字九鬼

2. 調査日 昭和53年8月19

日・20日

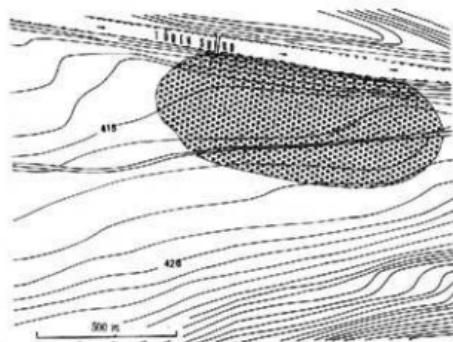
3. 調査者 奈良泰史・藤岡正治

4. 調査状況

九鬼山の北麓に広がるなだらかな斜面に位置し、現状は桑畠である。

この斜面を東流する東電水路の周辺より、土器片、須恵器の破片が20点程、表面採集によって採集された。

しかし、桑畠のためグリットを設定

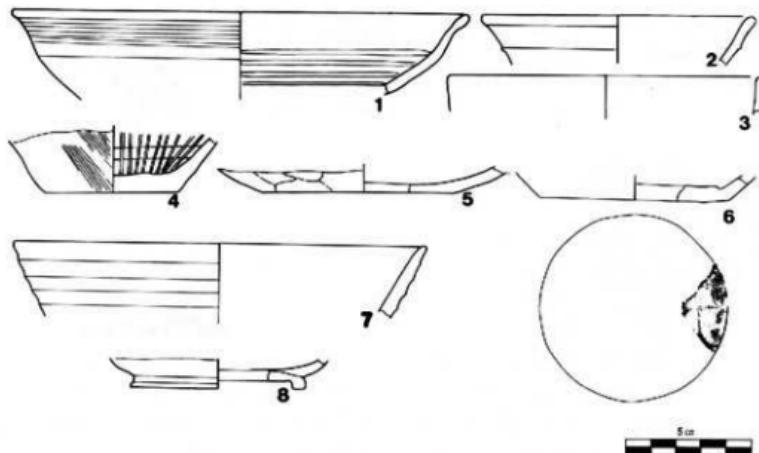


第48図 九鬼第2地点地形図

することができなかった。

5. 出土遺物(第49図)

表面採集によって、20点程採集できた。その内、図上復元できたものは、8点である。1～6は土器で、杯の口縁部(1～3)と底部(4～6)である。7・8は須恵器の口縁部(7)と高台付底部(8)である。これらのうち1には器内面に横方向に、4には縦方向に、暗文が施されている。器外面には、刷毛目(4)，ヘラ削り(5)が施されている。6の底部には系切り痕が認められる。



第49図 九鬼第2地点遺物実測図

4. まとめ

今回の国道都留バイパス通過予定地内における詳細分布調査では、20地点、36グリットの試掘調査を実施した。その結果、9地点において遺跡の存在が確認された。

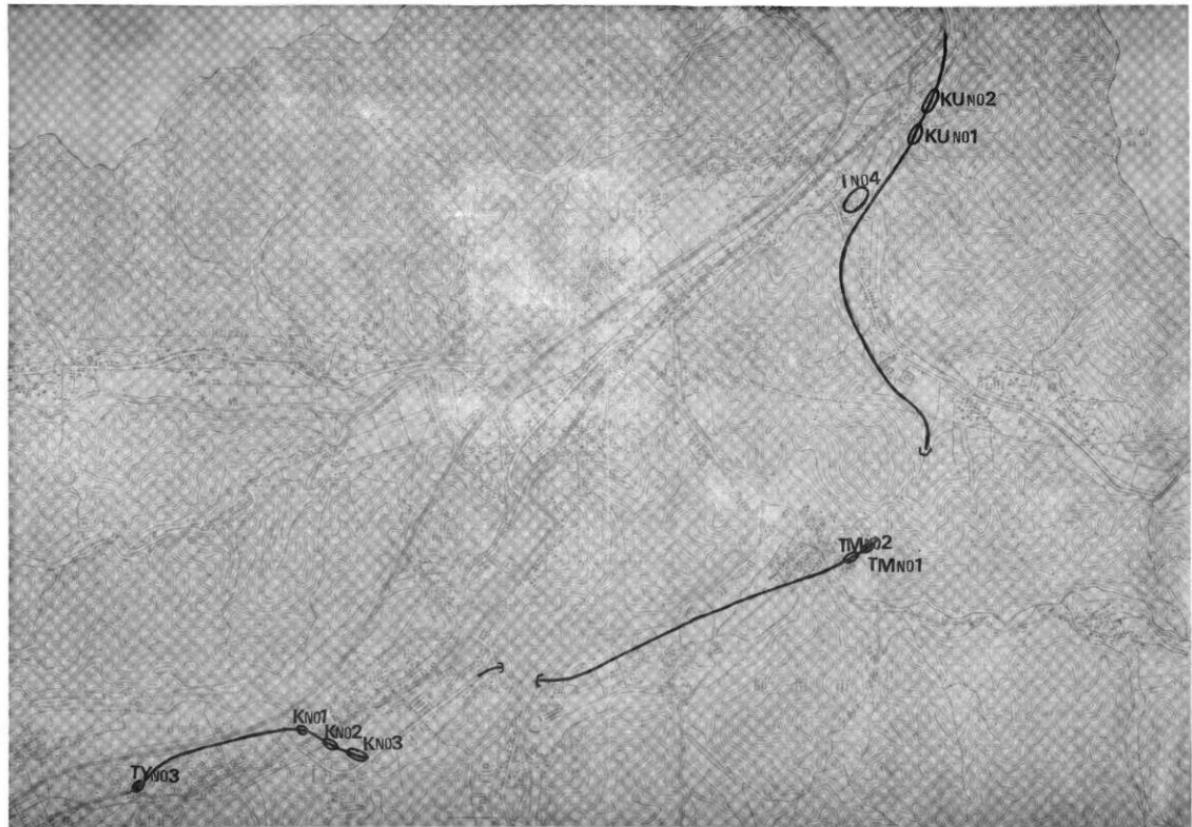
これらのうち、十日市場第2・第3地点は山梨県東部域において実態が不明瞭である弥生時代の遺跡であり、又、この地点までは大明見溶岩流が流れており、溶岩流の流出時期を考える上でも重要な遺跡である。上谷第1地点では、黒褐色土層中から縄文早期の土器片が、1点ではあるが認められた。土層状態も良好な上、地形的にみても、周辺に遺跡の存在が予想される地点である。上谷第2・第3地点では、土器片が認められ、歴少ないこの時代(平安期)の遺跡として重要である。しかしながら、両地点とともに遺跡の中心部からは若干はずれている模様である。玉川第1・第2地点では、それぞれ石器・剝片・石核等が出土した。土器が伴わなかった為、時期は不明であるが、

この周辺に石器の製作址が存在する可能性がある。いずれにせよ、調査を要する。井倉地区では、第3・第4・第5地点を美通遺跡の周辺に設定して調査に当たった。その結果、バイパス予定線は、美通遺跡からはずれていることが判明した。又、美通遺跡の縁辺に位置する第4地点第1グリットからは、多量の遺物が出土したが、遺構の存在は確認できなかった。九鬼第1地点では表面採集により縄文早期～中期の土器片と須恵器片が、第2地点では同じく表面採集で上師器片・須恵器片が採集された。両地点とも、要調査地である。

地 点 名	出土遺物(時 期)	本調査必要の有無	遺跡の面積	備 考
十日市場 第1	無	無		
" 第2	無	無		
" 第3	弥生中期の土器片	有	1300m ²	集落址
" 第4	無	無		
" 第5	無	無		
上 谷 第1	縄文早期の土器片	有	1200m ²	遺跡の縁辺部
" 第2	土 師 器(环)	有	1300m ²	"
" 第3	上 師 器(カメ)	有	1300m ²	"
法 能 第1	無	無		
" 第2	無	無		
" 第3	無	無		
長 川 第1	石 器・剥 片	有	1400m ²	石器製作址?
" 第2	石 器	有	300m ²	遺跡の縁辺部
井 倉 第1	無	無		
" 第2	無	無		
" 第3	無	無		
" 第4	縄文早期～上師器	有	5600m ²	集落址
" 第5	無	無		
九 鬼 第1	縄文早期～中期(土器)	有	1500m ²	集落址
" 第2	土師器・須恵器	有	2300m ²	集落址

5. あとがき

本報告作成に当たり、日本大学考古学研究会、都留文科大学考古学研究会から多大な協力を得た。本報告が、こゝに日の目を見るのも、ひとえに両大学考古学研究会員の献身的な協力があったからである。文末ではありますが、こゝに感謝する次第である。

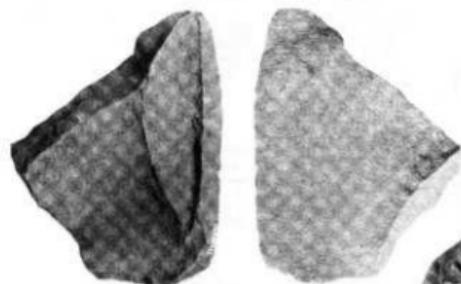
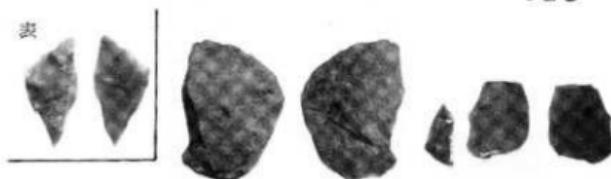




井倉第4地点
(挖掘部)
第Ⅲ層

PL 9

表



II

III

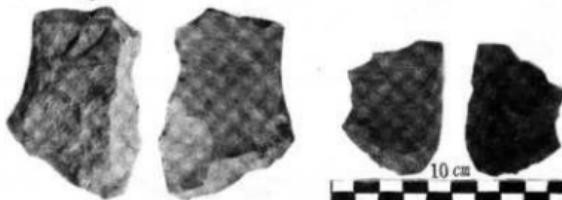


1m 4 A

表 採 II 層

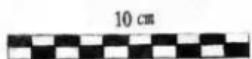
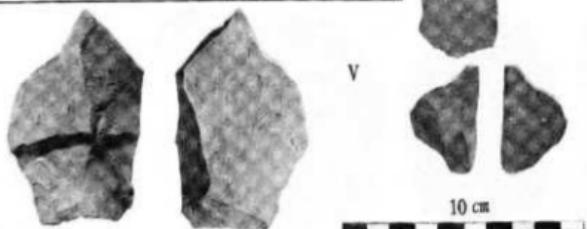
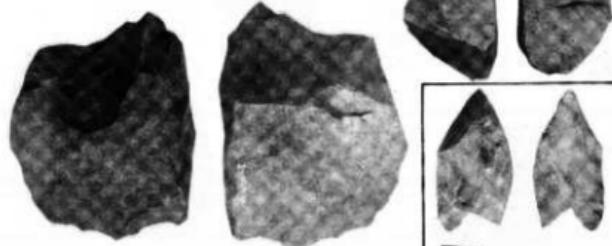
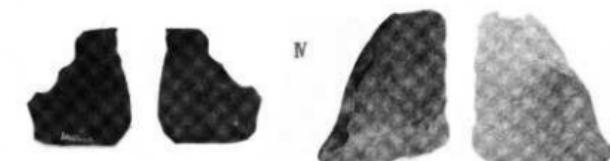


IV



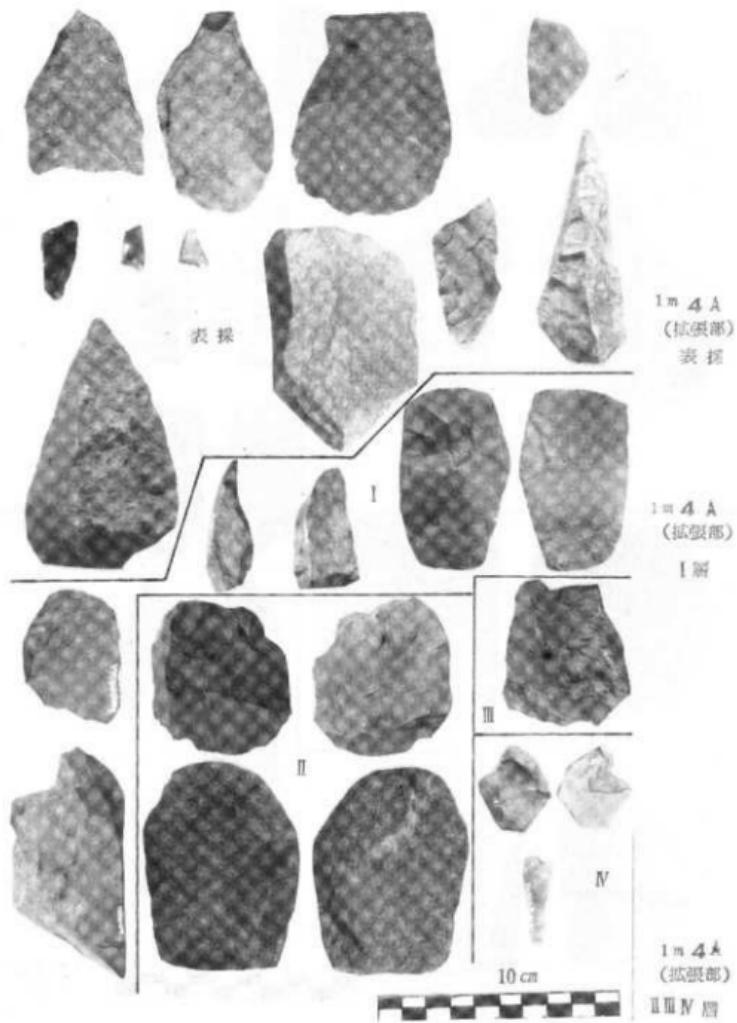
1m 4 A
IV 層

PL 10

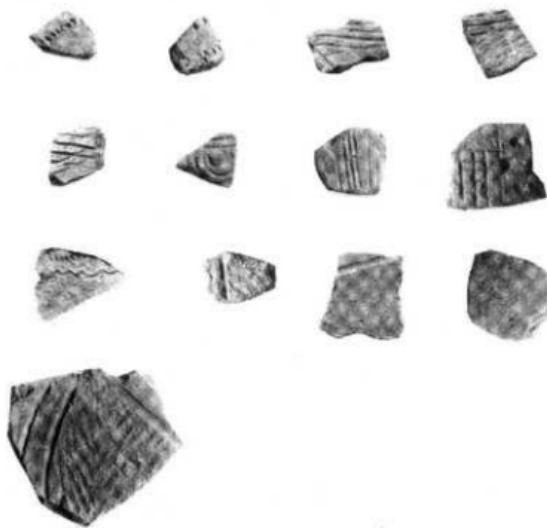


1m 4 A
V 層

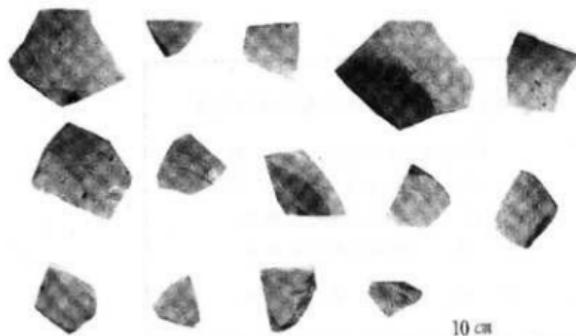
PL 17



P I. 12



九鬼第1地点



九鬼第2地点

10 cm



国道都留バイパス詳細分布調査報告書

昭和54年3月25日 印刷

昭和54年3月30日 発刊

編集 都留市教育委員会

発行 都留市教育委員会

印刷 佐野印刷

